

明

柔

'91 L

優勝特集号

第40回全日本学生柔道優勝大会

明治大学柔道部明柔会会報



MEIJI UNV. JUDO CLUB
PERIODICALS

満天下の優勝に乾杯

部長 百瀬 恵夫



十九年ぶりの勝利の瞬間は、筆舌に尽せぬ感激であった。姿先生、神永先生をはじめ、OB諸氏の眼は、その証しを隠そうとはしなかった。私自身、部長に就任して十一年間での初めての優勝である。「スポーツは勝つことだけが目的ではない」とは知っているが、勝負の世界は負けるより勝つ方が良いのは当たり前のことである。

本学の体育関係の施設はいたって貧弱い。こと柔道部に関しては、道場はもとより合宿所もいたって貧弱である。マスコミ関係者が道場に取材に来て、この施設でよくも優秀な選手を輩出しているものだ、と一様に驚いている。自慢できる話ではない。明重松裕之助監督の柔道に対する深い情熱と指導力に負うところ大である。施設は貧弱、部員も少ない、入ると卒業がきびしい等あらゆる面で他の大学と比較にならない困難な条件の下で優勝できたのは、きびしい稽古を積み重ねた結果にほかならない。原監督局はいかなる認識をもっているかを改めてこの機会に問い合わせたいのである。

柔道部の優勝は、学生自身の努力によって成し遂げられたことはいうまでもないが、これを実現させた原吉美監督と氏を支えた姿師範の胸中に去来するものは何か。輝かしい歴史と伝統を有する明大柔道部の復活であり、永くて遠い十三回目の優勝への道程であつたに違いない。本学柔道部の総帥として歴史を築いてこられた姿先生に対して、心から敬意を表さねばならない。

柔道部の優勝は、柔道部OBで組織する明柔会員の方々の物心両面にわたる強力なご支援の賜であり、この機会に改めて深甚なる感謝を申し上げる次第である。

今回の優勝は、かつてない逆境の中での快挙であり、関係者一同感概無量のものがある。学内が揺れ動いている昨今、柔道部の優勝は、一筋の光を投げかけてくれた。明大体育会全体の朗報であり、体育会の前途への光明ともなったのである。満天下の優勝に対して、私は感謝の念で一杯である。

何卒皆様のより一層の御支援をお願いします。



全日本学生柔道優勝大会十九年ぶり十三回目の優勝 師範 節雄

全日本学生柔道優勝大会は昭和二十七年に第一回が挙行され、回を重ねること四十回、今年は全日本学生柔道連盟四十周年記念優勝大会として百四十校の参加のもと盛大に挙行された。

この記念すべき優勝大会に我が明大柔道部は昭和四十七年優勝以来十九年ぶり十三回目の優勝をしたことは誠に喜ばしいことで、感慨一入のものがある。

この優勝は平素の情熱あふれる部長、監督、助監督の指導と部員一同の精進の賜であるが、又明柔会諸兄の常日ごろの熱心な物心両面の御支援のお蔭であることを忘れてはならない。ここに明柔会諸兄に対し厚く謝意を表します。

昭和二十年～四十年代にかけての明大全盛時代は部員数も多く選手編成にもあまり苦労は無かつたが、最近は漸次入学難のため部員の数も減少し優勝はなかなか容易なことではない。平成元年の小川主将の時は優勝の好機と思っていたが、決勝の東海との対戦で一対一の内容差で流れ涙をのみ悔しい思いをしたが、そのお返しが出来たことは喜びにたえない。

今年の東京学生柔道優勝大会では、吉田、秀島が故障のため起用出来ず準々決勝で日大に敗退、全日本学生柔道優勝大会に備えて監督以下部員一同揃つて頭を丸め心気一転頑張り、私も五十年ぶり軍隊生活以来はじめて丸坊主になって優勝を祈念したものである。

全日本学生柔道優勝大会十三回優勝は天理、東海の十回優勝に三回上廻っているがこの優位を何時までも持続するためには大変な努力が必要である。

明治十二回目の優勝 第四十回全日本学生柔道優勝大会



優勝旗駿河台に還る

明治遂にV奪回、東海の3連覇阻止

第四〇回全日本学生柔道優勝大会が六月二九日（三〇日の両日、日本武道館で開催され、明治大学が十九年ぶり十三回目の栄冠に輝いた。本大会は四〇周年を記念する大会となり、一四〇校が参加するマンモス大会となつた。一日目は三回戦まで行われたが、とくに新興校の活躍が

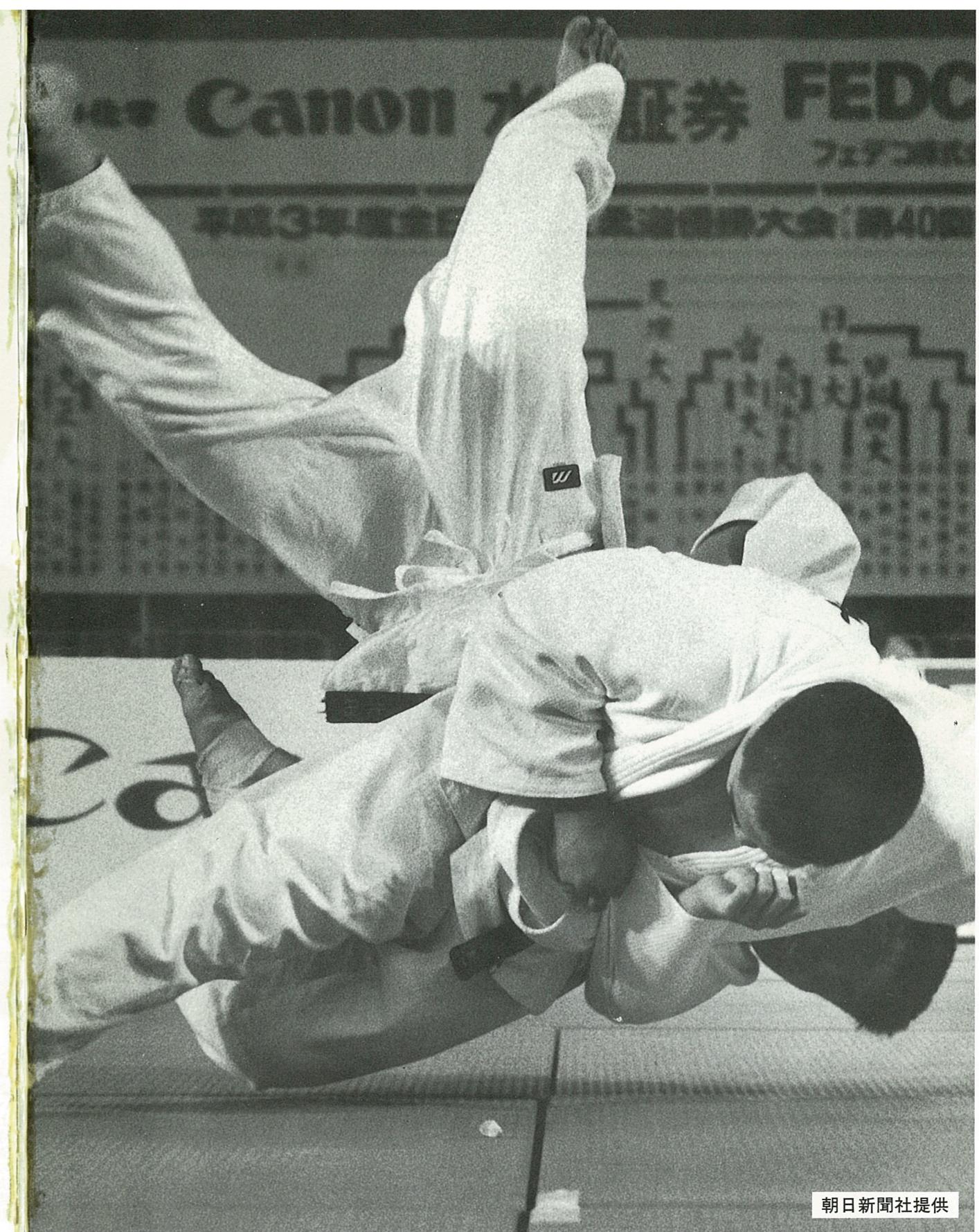
目立ち、中大、法大、拓大、専大、東洋大など
の伝統校が一、二回戦でやぶれるという
波乱があつたが、二日目からは実力校が
順当に進出し、ベスト4には四年連続で
明治大、近畿大、天理大、東海大、が勝
ちのこつた。準決勝では明治大学が吉田、
松本の活躍で、初優勝を狙う関西地区の

優勝校近畿大をやぶり、東海大がねばる同地区二位の天理大を振り切った。二年ぶりの対決となつた明治大学と東海大学の決勝戦は明治の次鋒、松本が「技有り」を先行されながら大外刈で鮮かに一本勝ち、追う東海三将山田に「有効」を許したものの、残る岡部、佐々木がリ

ードを守り切つた。
部員数二〇名という選手層の薄さなどからベスト四校中最も苦しいといわれてゐた明治の優勝は、猛練習に耐えた選手の力と自信、にあわせて長いブランクをうめるべく日頃から現場とO.B.が一体となつてやつてきた結果といえる。

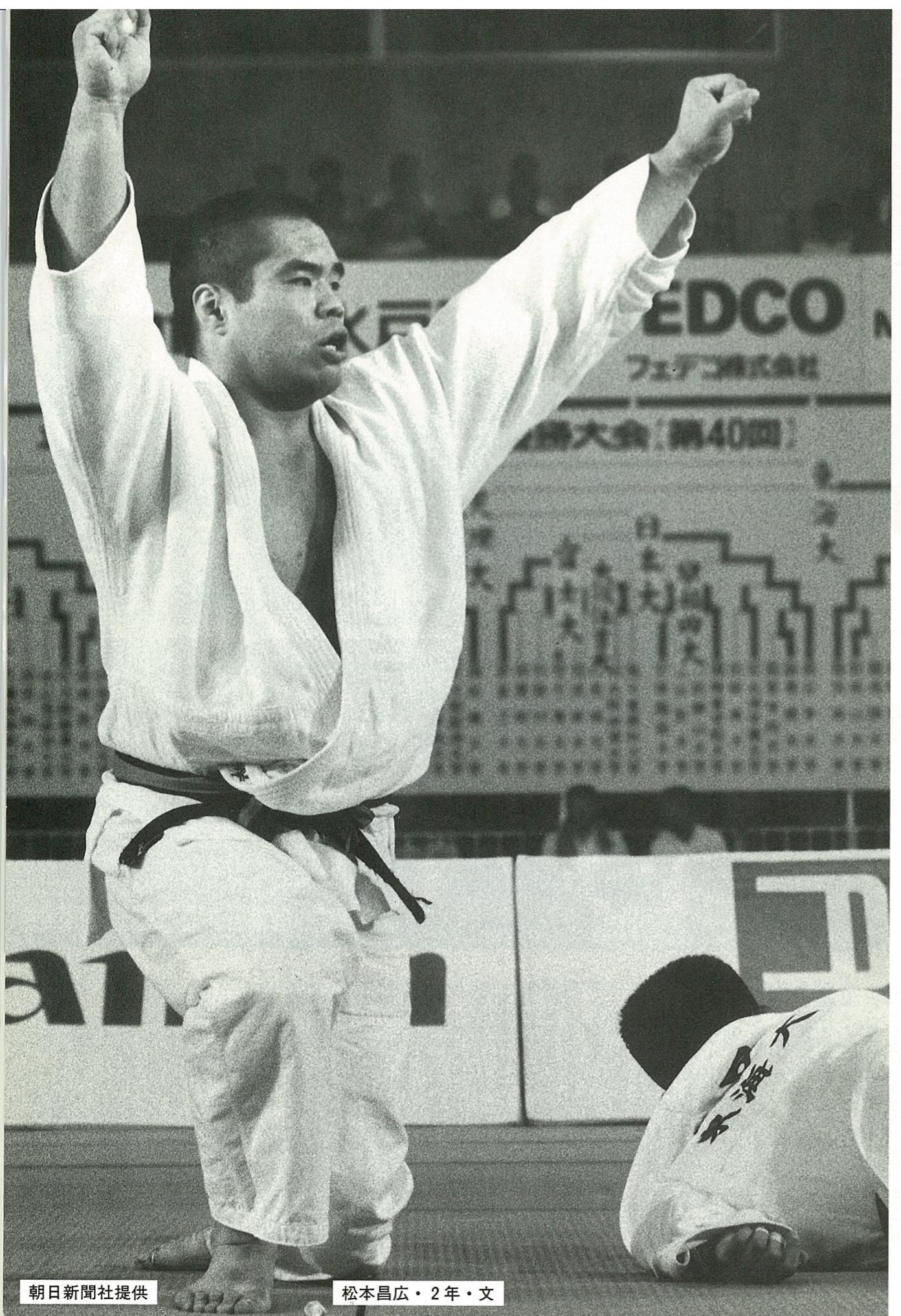


優勝をきめた美技



松本—大外刈—北田(東海大)

見たか！ おれが松本だ



朝日新聞社提供

松本昌広・2年・文

苦節
一九年

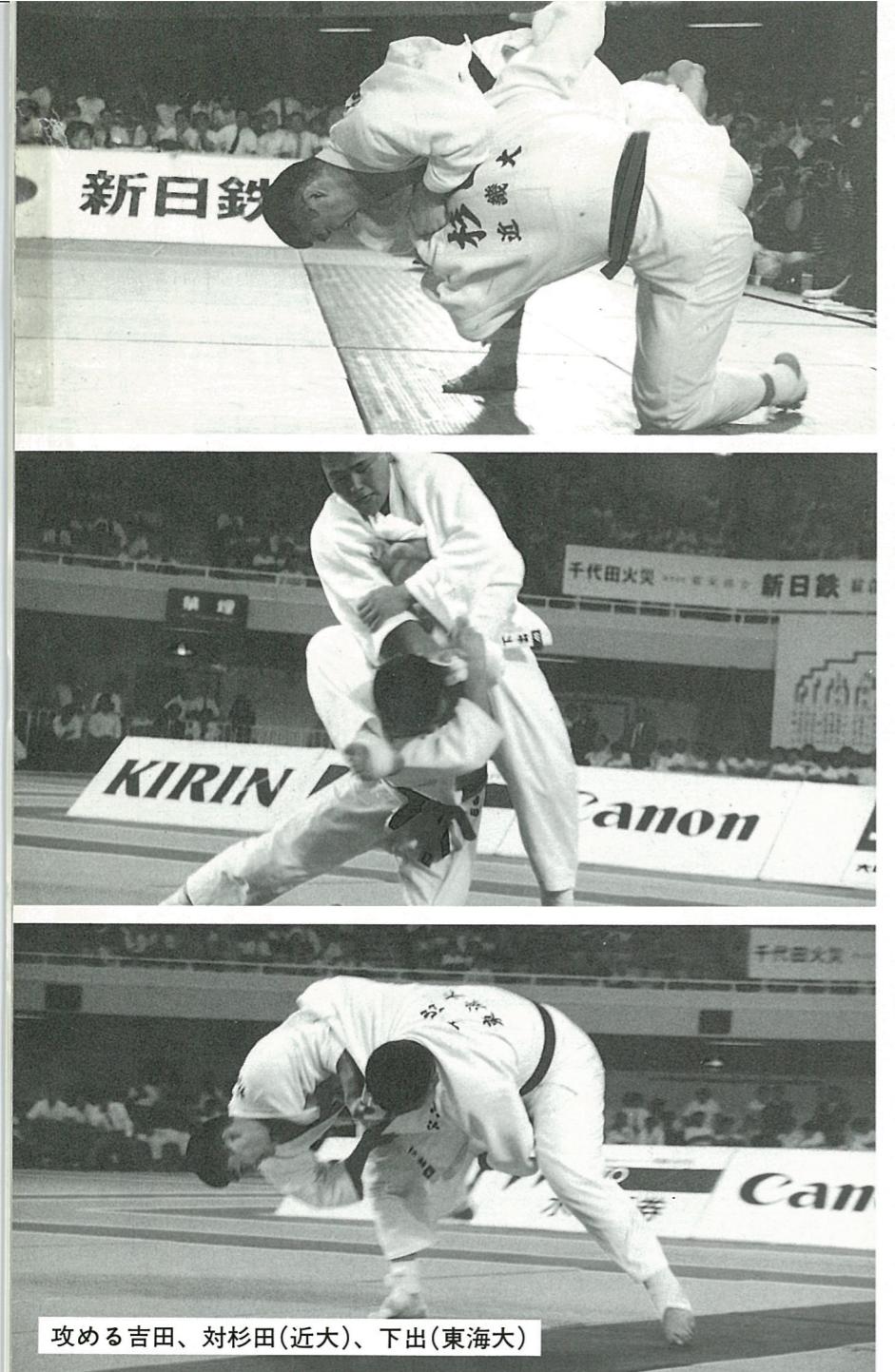
卷之三

平成三年六月三〇日、この日は我が明大柔道部が一九年ぶり一三回目の学生王座についた記念すべき日である。

振り返れば苦節一九年、永年戦後の学生柔道界に君臨してきた明大柔道部も、入学難による駒不足から冬の時代に入つて久しく“明治も遠くなりにけり”の声がきこえ出していた。ただその中にあつて小川直也の活躍はめざましく暗闇に一



ミスター明治、キャップテン吉田



攻める吉田、対杉田(近大)、下出(東海大)

対二、うまくいって一対一の代表戦が精
一ぱい！」と大方の見方は母校不利だつ
た。しかし、選手たちは見事にこの予想
をくつがえした。主将吉田を中心のみな
怯むことなく堂々たる試合を開幕し、結
果、待ちに待った十三回目の優勝を果し
てくれた。

体格差もさる事ながら個々の戦績において圧倒的に上位にある東海勢に対し、一步もひかず、攻めるものは攻め、守るものは守った、堂々の勝利であった。それにしても副将、大将戦の時間経過の長かったこと、時間が止まってしまつたのではないか、といらだつたのは私一人ではなかつたはずだ。

優勝おめでとう、明治はよくやつたねと会う人毎から祝福を受け心を弾ませながら道場へむかつた。

その日の道場で飲んだビールの美味かつたこと、全国の明柔会の皆さんにも是非のんで頂きたかった。

さて、次の戦が始まつた。今回の優勝が僥倖と云われないためにも勝つ時は反省し連霸にむけ頑張つて頂きたい。来年もまた皆で肩を組みながら勝利の美酒に酔いしれたいものである。

いよいよ待望の決勝戦、この日の東海大はメンバーをおとしていたとはいえ準々決勝で同志社大に二対一と苦戦しておわり、もうひとつ意気が揚つていなかつたしかし決勝戦のメンバーを見ると全くスキのない豪華な顔ぶれだつた。

試合毎にカンの冴えてきた原監督の采配振りであつたが選手層が限られている明治にとってはどう組み合されても不利は免れない、しかし何とか個々の力を發揮しやすいタイプの相手とあてたい、と析る様な気持でオーダーの発表をまつた組み合せを見て、明治にチャンス到来、の感が走つたが、相手もとくに不利な組

臨んだが出場選手たちは気迫あふれる戦いぶりで勝ち進んだ二日目、準決勝は関西地区優勝校近大との対戦である。個々の戦力分析ではやゝ近大がリードしていることは否めないが、監督の選手起用如何で、戦局は変るものと興味津々であつた。結果として、組合せもまづまずであつたが選手たちが期待に応えて奮闘したので、三対三の内容勝ちではあつたが危気はなかつたといつてい。

オープン制の大会となつた。（参加大学
一四〇校）

たことであつた。
いよいよ大会当日となつた。今大会は日本学生柔道創立四〇周年の記念大会にあたり、全国の希望校が全て出場できる

ナに影響があるのではないか、などの心配をよそに大会の日は迫ってきた。この間の原監督の心境が手に取るようになるだけに、どう励ますべきか、頭を悩ませ

拭えなかつた。
東京大会から本大会までちょうど一ヶ月、吉田・秀島の怪我は回復するのか、回復できただとしても練習不足からスタミ

ひります、「今年こそ」の思いが明大関係者の間に一層広まつた。

条の光を投げかけていた。

一昨年、久しぶりに小川主将を軸とした強力メンバーが揃い、王座復活を目指してチャレンジしたが東海大の壁は厚く決勝で涙をのんだ。昨年、上村春樹監督からバトンを受けた原吉実監督の指揮下打倒東海大を合言葉に再び「巻土重来」を期したが、またしても東海大の堅城を破ることが出来なかつた。しかしこれに

吉田主将・秀島選手の主力を怪我で欠いていたとはいえ準決勝で宿敵日大に破れた過云の大会成績を見る、甲子台の易合

ひります。“今年こそ”の思いが明大関係者の間に一層広まつた。

ムードメーカー、善隆

この勢いを来年に

上村春樹

皆よくやつた。おめでとう。

小川のいた一昨年も久々のチャンスであつたが僅差で決勝戦を失つた。

今年も優勝候補に上げられ、部員たちは例年にもましてきびしい練習にうち込んでいた。道場は優勝を狙うチームの雰囲気に溢れていたが、客観的な他候補校との戦力比較では、中心選手に吉田、秀島、鉄谷、山本と中軽量級が多いことも含めて選手層の薄さは如何ともしがたかった。原君もこの点では腹をくくつていただろう、しかし、結果は選手それぞれが同じ戦いを二度と出来ないのではないか、と思われるほど自分の持ち味を出した戦いに終始し、マンモス東海大、近大に勝つた。

観戦中思わず席をたちかけた程緊迫した決勝戦だったが、チャレンジヤー精神に溢れた立派な戦いぶりだった。

立派にチームをつくり上げた原君、多忙のなかにありながら、部の運営から学生の学習指導にまでたえず気を配つてこられた百瀬部長の尽力に心から御礼申します。

吉田、岡部の卒業はあるが、この勢を加速させて来年につなぎ再び明治の黄金時代をうち建てなければならない。そのための課題はいくつかあるが、具体的な一つに本大会の決勝戦のメンバーからはされている中島、竹内、増田ら重量級二年生組みの成長があげられる。明日からの彼らの努力如何で吉田、岡部の穴は樂にうまる筈だ。心から期待している。

全日本監督

四七年度 旭化成工業株

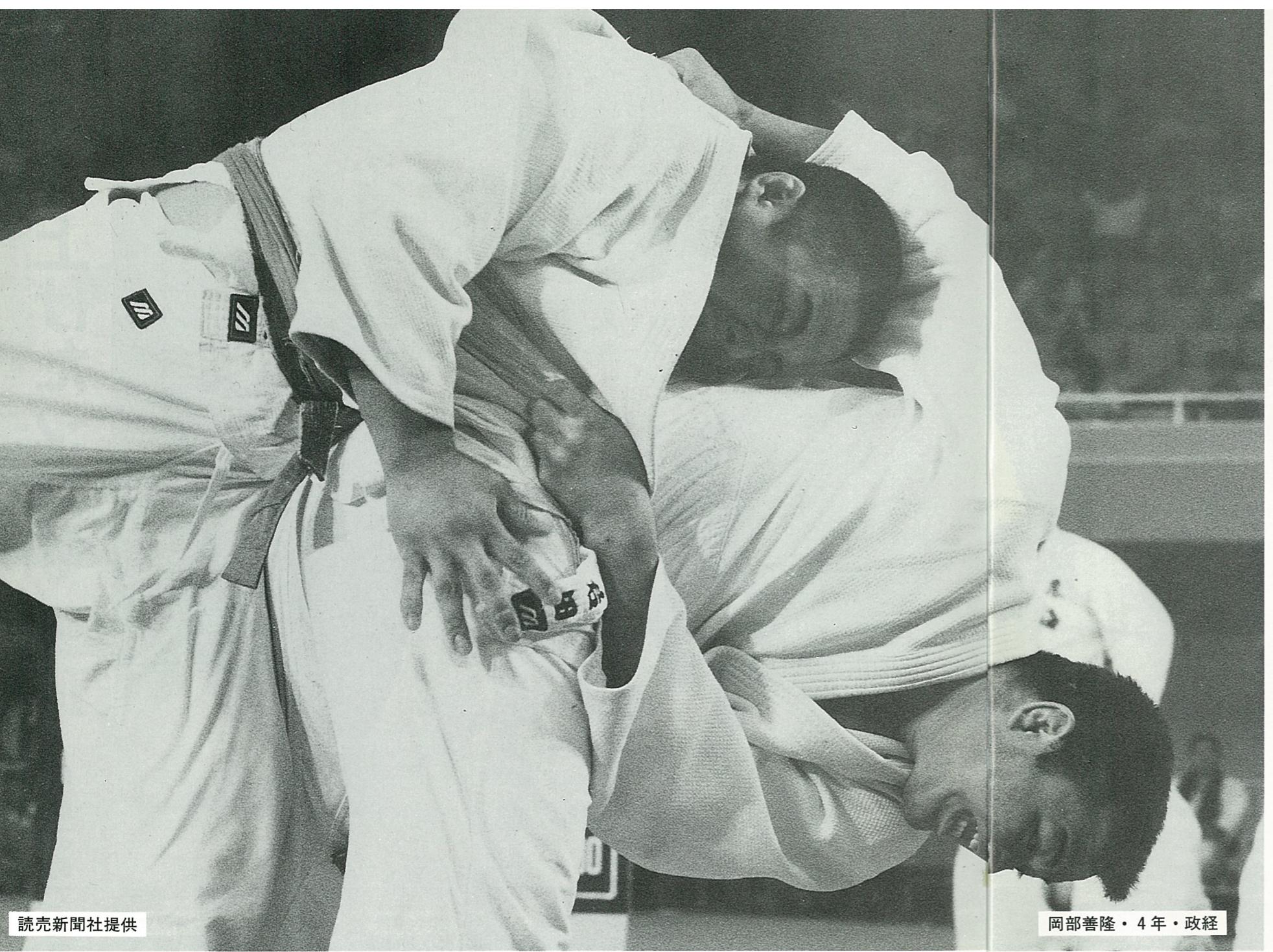
流れをつけた秀島

篠巻政利

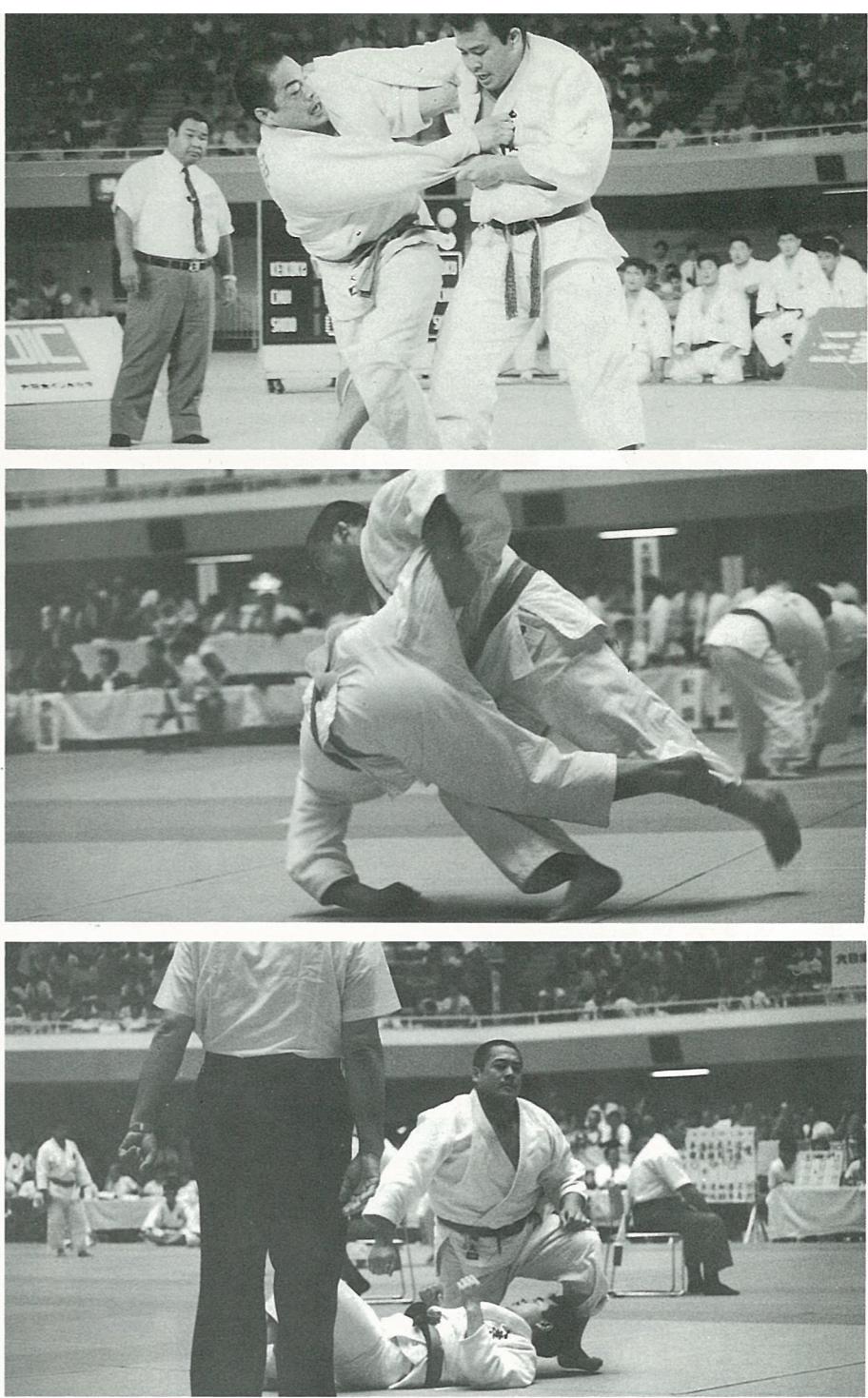
全七試合を通して技で失ったのが二点だけというのはチーム力の充実ぶりを物語っている。強力メンバー相手の準決勝、決勝では選手各々が自分の持ち味を出し切っていた。とくに気力の面で相手に遅れをとっていたものは見あたらず、決勝の鉢谷対山田、佐々木対佐藤戦などはまさに気迫の勝負だった。

接戦ながらも終始試合の主導権をとつて戦いぬいた要因の一つに準決勝近大戦の先鋒秀島の戦いぶりが上げられる。秀島は腰を痛めていてこの試合からの登場となつたが、それだけに気力は漲つており、体重が倍近くある阪部に組み勝つて攻めまくった。結果は小内刈の有効勝ち、体力差から見て阪部が攻め秀島がどう守るかがカギと思われたが展開はまったく逆であった。これまで好調に勝ち進んで来た阪部の力から見て秀島の気迫に負けたという他はなく、その後の近大勢を浮き足だせるに十分な試合内容だった。

東海大と互角といわれた近大の戦力を入口で封じてしまつた秀島の戦いぶりはこの大会にむけた明治の執念を象徴しており、優勝への流れをつけた一戦であつたと思う。彼のタイプを十分に把握し、この場面に起用した監督の読みもまたタイミングであった。



読売新聞社提供



岡部善隆・4年・政経

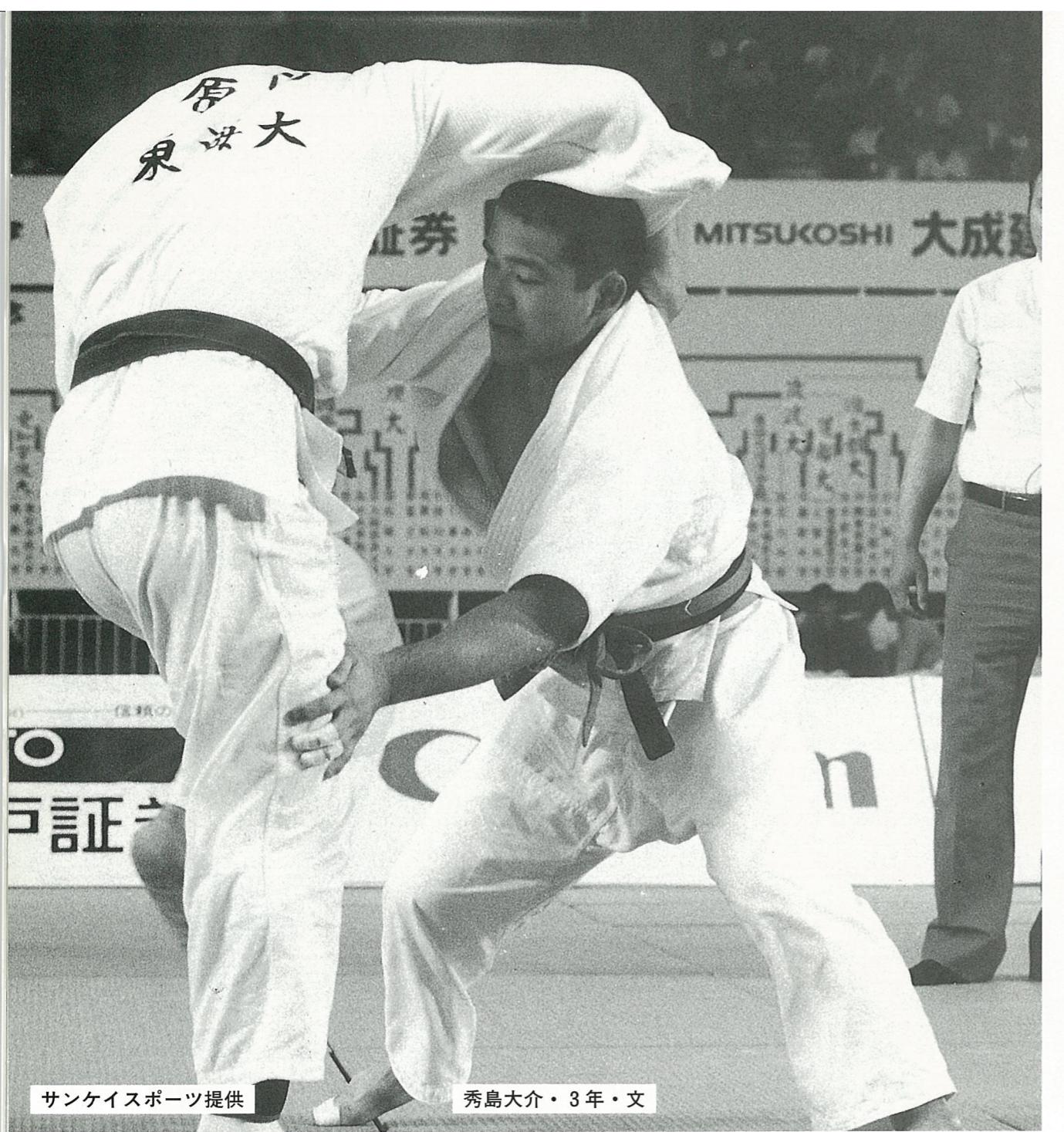
男を上げたシン・ヤ・

優勝おめでとう!!

関 勝 治



佐々木伸也・2年・文



サンケイスポーツ提供

秀島大介・3年・文

流れをつけた秀島の闘志

原 実 吉 感謝

J R A 日本中央競馬会

ありがとうございました。

三九年度

J R A 日本中央競馬会

監督として二年、助監督時代の四年間を加えると六年間道場に立つてまいりました。改めてきびしがった道のりをふり返っていますが、一九年という年月はO Bとしても実に長い時間でした。時間といえば、今大会の決勝、大将戦ぐらい時の経つのが遅く感じられたことはありません。長い時間のあと優勝が決まり、瞬間念頭をよぎったのは、私を支えてくれた方々の厳しい顔、温かい顔々でした。部長、師範、助監督の学生たちの成長を願う気持と、絶えず心のこもつた指導支援をして下さる明柔会の先輩たちの熱意に改めて敬意と感謝を述べさせていただきます。また日頃から明大柔道部を応援して下さる皆様にもこの機会をかりて厚く御礼申し上げる次第です。

あらしのような感激が去り、冷静にこの六年間を振り返った時、私自身の力不足による反省点ばかりがよみがえってまいりますが、チャンピオンの誇りと自信をバネに、学生ともども連覇にむけて一層の努力を重ねる所存です。益々の御指導と御鞭撻をお願い申し上げます。

昔から勝つて兜の緒を絞よ、といふ。これからも柔道部が一丸となって努力していくべきだ。最後に原監督は、仕事もなげうつて、毎日、授業との関係で全員と一緒に練習が出来ない部をよくまとめ十五時から二十一時近くまでの長い時間よく指導してくれた。大変だったと思う。

これからも今迄以上のご苦労があると思うが、自信を持って指導にあたっていただきたい。

明大柔道部 おめでとうございます。

苦節十九年、明大柔道部、明柔会組織一丸の勝利である。忘れかけた優勝の歌をO B、学生が一体となり武道館で高らかに歌い、諸に涙を流した。神田、関、篠巻、上村、原監督、五代目での勝利である。

姿師範が私の目の黒い内にと言い続け来た長い日であつたが、皆さん方の念願がやっと実現した。

昨年は準決勝で措しくも破れたが、今年の大将佐々木は昨年とは違つて落ち着いていた。

私も準決勝から正面の優勝旗の前に座り、今年こそはこの旗を明大道場に持ち帰るのだと胸に秘めて応援した。

決勝の最後佐々木の七秒前には、思わず組むな!! と声を出してしまった。勝った瞬間、優勝旗を握りしめていた、本当にうれしかった。選手一人一人が自分の役割を果した勝利である。

特に一年生の頑張りは見事との一言である。又反則負け以外は失点一であつたのも見のがせない。団体試合のセオリーである。

この勝利の味を忘れず二連覇にむけて努力していただきたい。私達も四連覇するため優勝した次の日から猛稽古した事を思い出す。

これからも柔道部が一丸となって努力しているべきだ。最後に原監督は、仕事もなげうつて、毎日、授業との関係で全員と一緒に練習が出来ない部をよくまとめ十五時から二十一時近くまでの長い時間よく指導してくれた。大変だったと思う。

これからも今迄以上のご苦労があると思うが、自信を持って指導にあたっていただきたい。

明大柔道部 おめでとうございます。



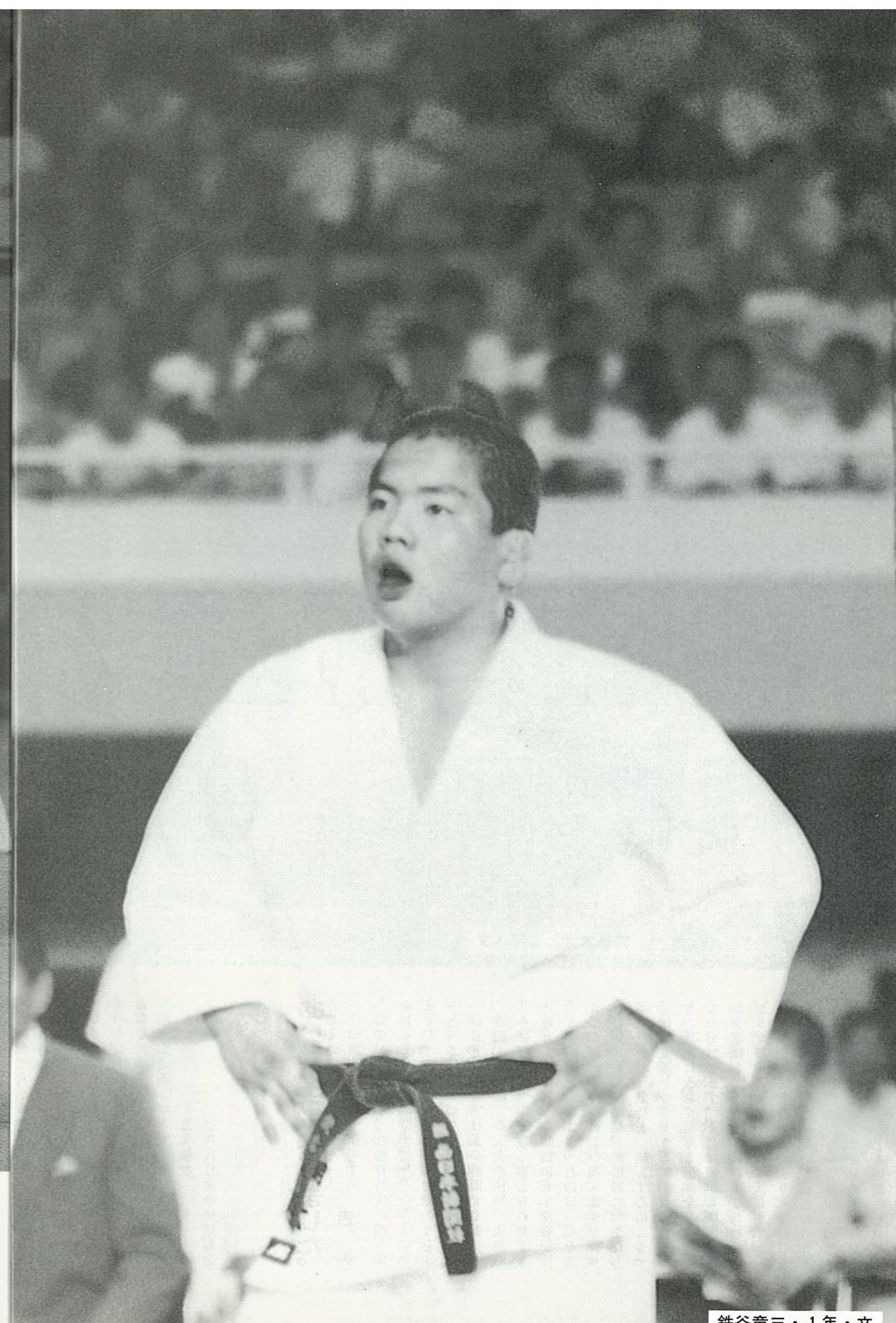
鉄谷、無心の頑張り



報知新聞社提供

静かなファイター、大瀧

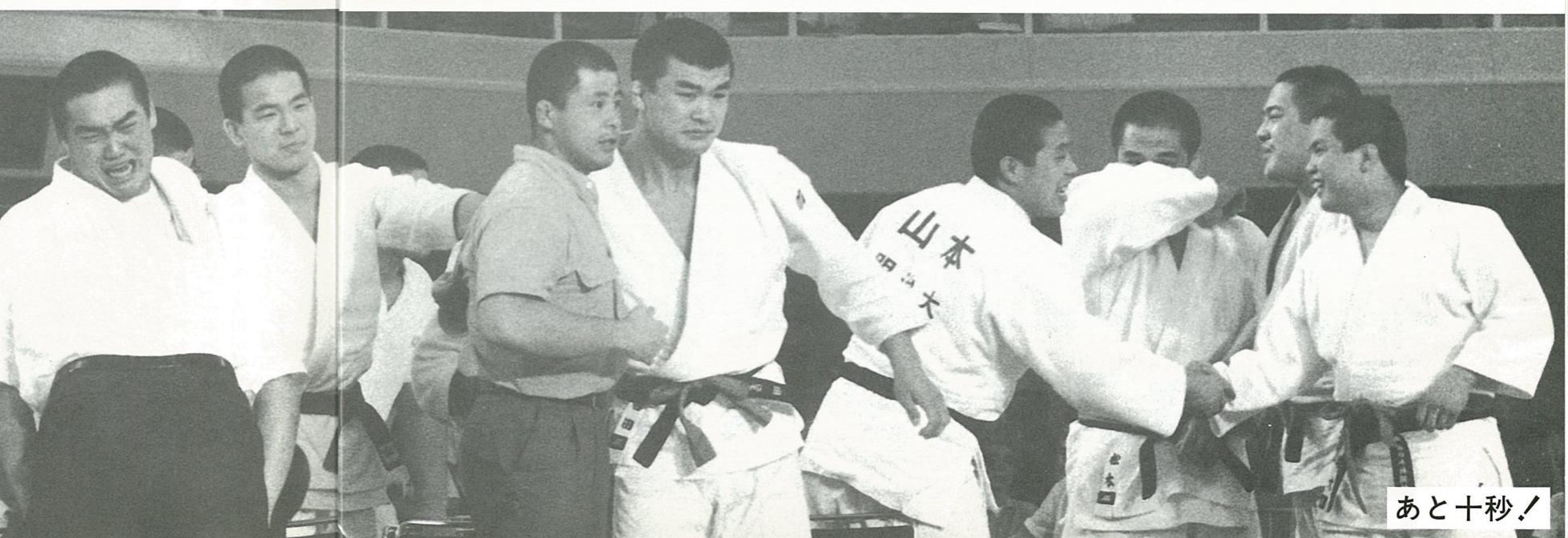
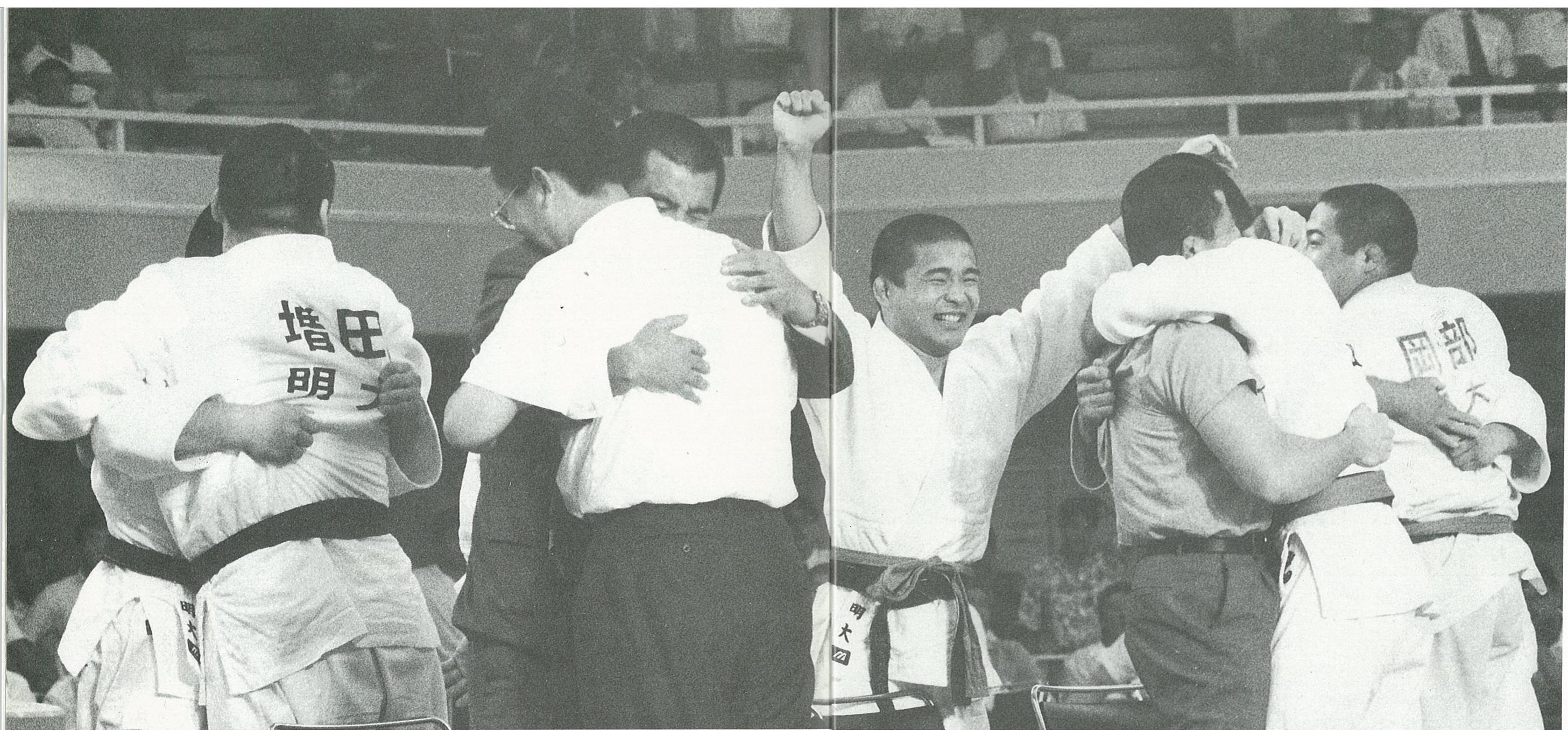
13



鉄谷竜三・1年・文

12

やつたぞ！



あと十秒！

各紙の報道から

けいこ、けいこで壁破り

毎日新聞

夢にまで見た勝利だった。その瞬間、原吉実監督をはじめ明大チーム全員がこぶしを突き上げて喜び、抱き合って感涙にむせんだ。

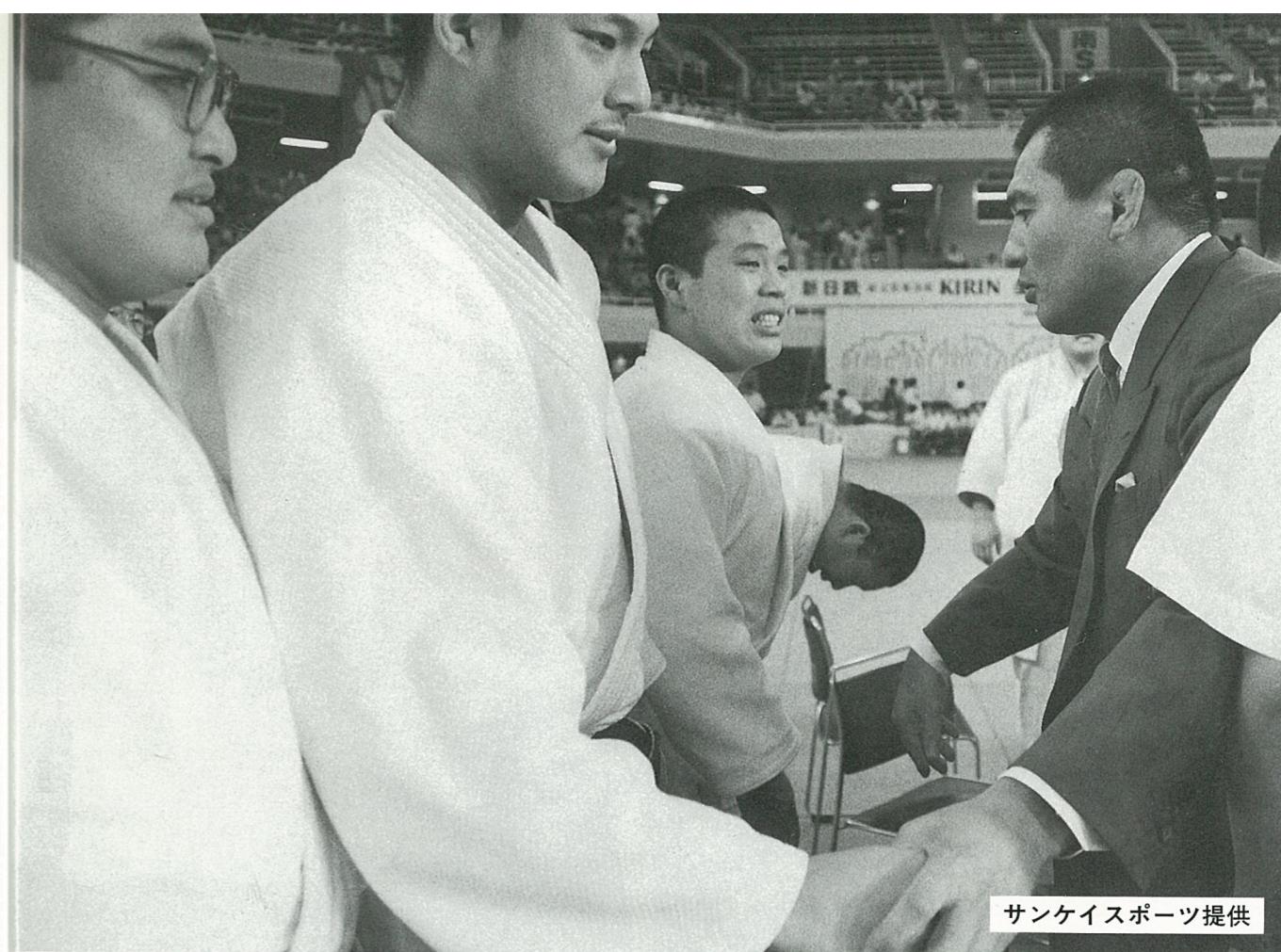
「よくぞここまで厳しいけいこに我慢してきてくれた。これまで東海大に勝つことをだけを目標にやつてきた。4年の監督生活で一番うれしい勝利です」と原監督は何度もハンカチで目をぬぐいながら、しぶりだすようになつた。

「体は小さい、人数は少ない、道場は狭い。強くなるには、一にもけいこ、二にもけいこ。けいこでカバーするしかないんです。練習量だけは日本一」と原監督はことあるたびに繰り返してきた。東海大が部員110人に対し、明大はわずか30人。平均身長で4才、体重で7才。も東海大より下回る。通う校舎、授業の時間割りもばらばらで、全員で練習することはない。明大の部員たちはそんなハンドイを1日4時間、週6日の猛練習で乗り越えた。

「今年は今まで一番優勝を狙えるメンバー（世界選手権代表の）吉田が主将としてみんなを引っ張ってくれた。チームの雰囲気は最高でした」と原監督。だが、六月二日の東京大会では準々決勝で日大に敗れるという辛酸も味わった。「それでも勝つためには練習するしかない」とみんな分かつていて」と吉田。

自分より13才、40才も大きい山田に有效を取られただけでころえ、勝利につながり一年生の鉄谷も「松本さんが一本取

感極まる



サンケイスポーツ提供

「いいコースを」のゲキ効いた

朝日新聞

抱き合う、というより、「体をぶつけ合う」に近かった。明大ベンチで、二年目の原監督と吉田主将は、歓喜に身をゆだね、だればばかることなく「十九年ぶりの栄冠」に涙した。その周辺も、そして会場のそこかしこでも、久々に「メイジ」が胸を張っていた。

喜びは、悔しさや苦しみが大きいほど募る。この三年間は、三位、二位、三位。けがで吉田らを欠いた六月二日の東京学生では日大に負け、ベスト4すら逃した。そして、この日、戦力が上の東海大を相手に、苦しみ抜いた。

腰痛で、準々決勝までは欠場を強いられた先鋒・秀島が、16才重い相手の原口主将に五分の戦いを。次鋒・松本は、大内返しで先手を取られたあと必死に攻めて豪快な大外刈りで「一本」。世界選手権78才級代表のエース・吉田が警戒されてポイントを奪いにくく、二年生の松本は

「代理の得点源はお前だ」と原監督から指名されていた。

「有効」を取られた三将・鉄谷は、両チームただ一人の一年生。「むしろ、有効あまりでよく頑張った。勝因のひとつ」と、三年前まで母校を率いた上村・日本代表監督はほめる。前回の明大優勝は四年生のときだけに、「長かったねえ」。実感がこもった。

学内はいま、替え玉受験事件で大揺れ。原監督が打ち明けた。「大会直前に、選手たちを集めときと言つたんです。柔道部はいいニュースを提供しよう、と」。胸のつかえを下ろした面々は、校歌を館内に心置きなく響かせた。

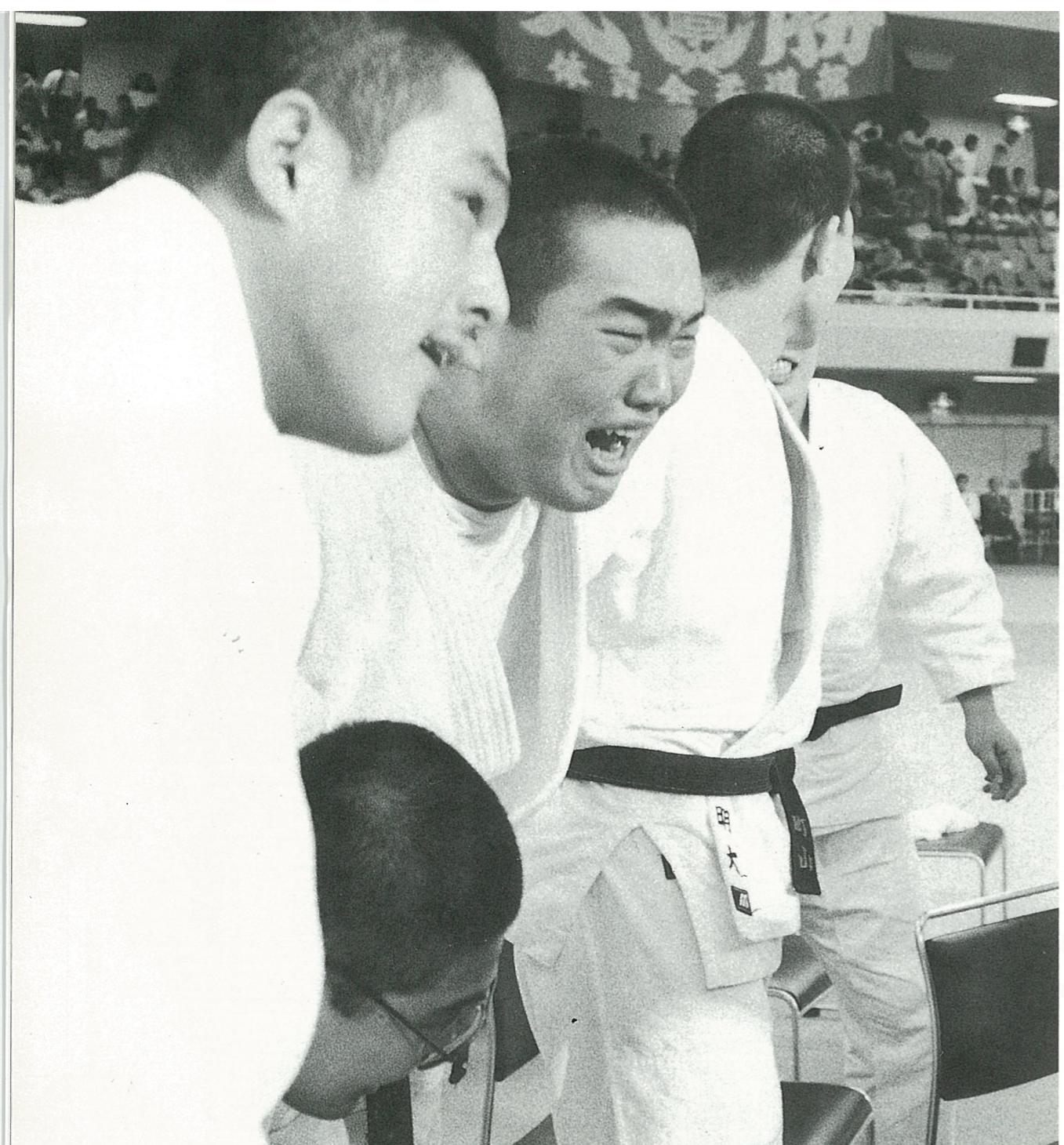
団体戦では、戦力とともに選手が与えられた役目をどれだけ果たすかが大きなポイントになる。決勝戦のオーダーを比べたとき、高校総体優勝者四人を擁した東海大の優位は明らか。山下泰裕監督も「どこからでもポイントが取れる」と自信を持っていた。

全員持ち味発揮一本も取られず

読売新聞

明大の選手全員が泣いていた。実に十九年ぶりの優勝。助監督を含め六年間、明大柔道部を指導している原吉実監督は「東海大に勝つことが悲願だった」といつて声を詰まらせた。

団体戦では、戦力とともに選手が与えられた役目をどれだけ果たすかが大きなポイントになる。決勝戦のオーダーを比べたとき、高校総体優勝者四人を擁した東海大の優位は明らか。山下泰裕監督も「どこからでもポイントが取れる」と自信を持っていた。



つてくれたので自分が取られたらまたぶりだしに戻ってしまうと思い、とにかく動き回りました」と先輩をたたえた。

厚い選手層、恵まれた練習環境。この先当分破ることはできないだろうと思われていた東海大の壁。明大は「全員柔道」でその壁を打ち破った。「勝つたらみんなでハワイに行く約束でした。試合のないときに連れていくつりたい」。原監督は晴れやかな笑顔だった。

少數精銳

小林敏邦

大方の予想は東海、近畿、天理、明治の順だった、準決勝開始の時点である。たしかに三校にくらべると明治の戦力は薄い。大会登録選手は十二名、この数は

明治にとつて部員の半数に近い。しかし、結果的に我々は少數精銳だった。

他の競技でもよく少數部員チームの活躍がある。この場合、マスコミなどは「少

数精銳で頑張る、云々」と好意的に話題にする。しかし、これらのチームが最後の大見出しになることは稀である。ハードスケジュールのトーナメント戦で、勝ちのこれる身心のスタミナに欠けるからである。

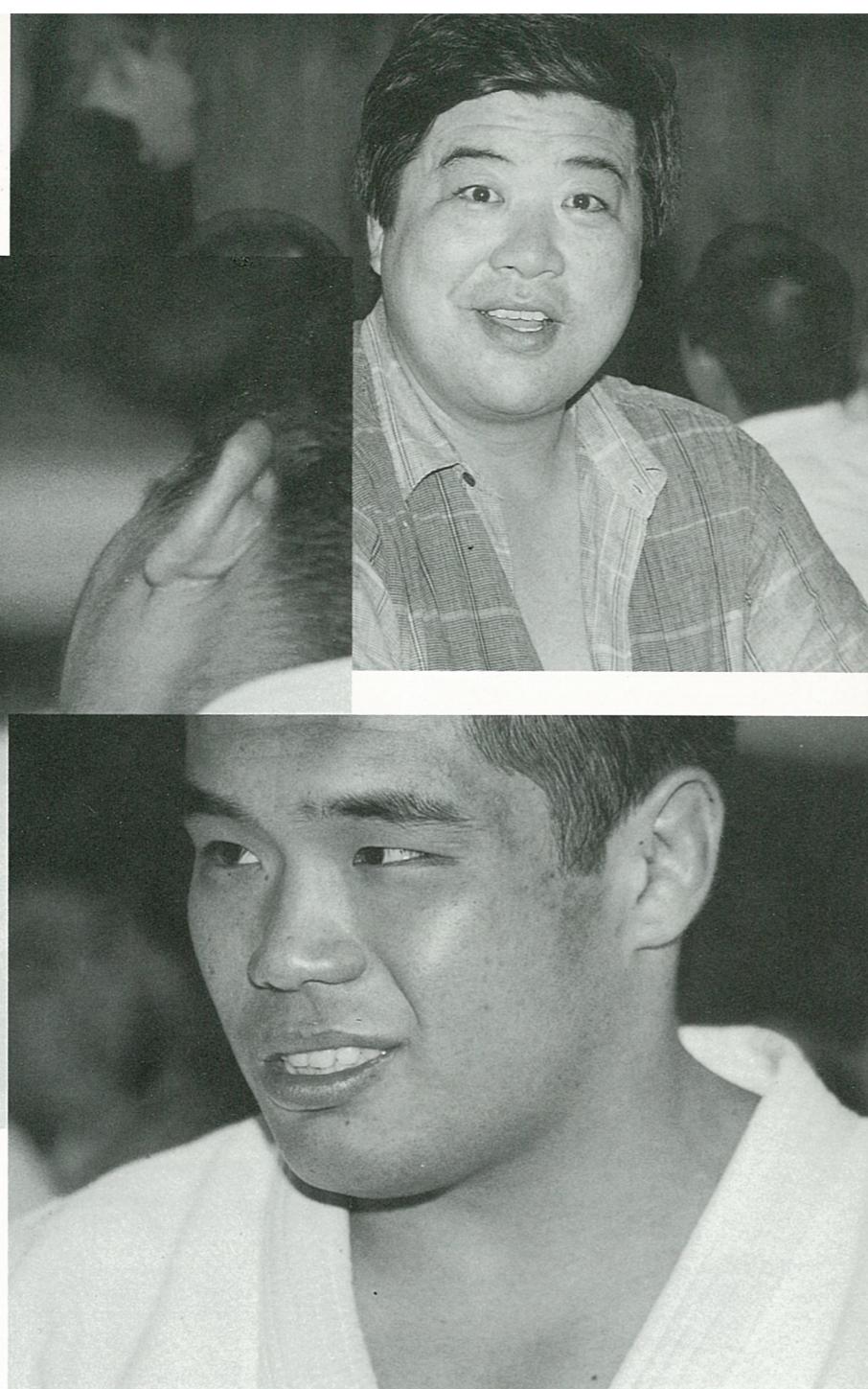
一流といわれるチームに於いて大勢の部員の中から選ばれたものは技術はもちろんだが、意識が非常に高い。かつての明治の選手たちがそうだった。

一方、世帯の小さいチームの選手は技術面はともかく、この意識の面が明らかに弱い、淡白なのである。敗れたときどうしても互にかばい、「やるだけやつた」の雰囲気ができてしまう、したがって次につながるドロドロとした執念がのこらない。そしてこれが悪循環するところとなる。力のあるものどうしが挑みあい、友人を蹴落して上ってきた集団との違いである。

「本当に身心の力を出し切ったのか?」「やるだけやつたといえるのか?」、指導陣がたえず部員に問い合わせてきたことである。とにもかくにも我が少數精銳は頑張った。試合を重ねる毎に個々に素直な気迫が漲つてくるのが伝わってきた、カラ元気ではない。みな一応自分の柔道をやっている。戦局をふまえた試合が出来る冷静さにそれが現れていた。

これはいける!と秘かに思ったことだつた。

よく、自分の柔道云々という、自分の柔道が出来る、する、ということはつまるところ平常心で戦えるか何うか、ということだろう。その意味で今大会の明治勢は大むね自分の柔道が出来ていた。



「顔」その瞬間

明治の練習は激しい、周囲からやり過ぎるといわれる時さえある。明治にいくとつぶされる、と他意のある風評があることも知っている。たしかに他校にくらべると一段きびしい練習内容だが稽古に哲学を欠いてはいない。一言で猛練習といふが意識を欠いたただ体を酷使するだけの稽古は下である。体力が極限状態におかれても考えることを捨てない稽古が理想の稽古であり、精神力の涵養につながる。

主将吉田の柔道はその意味から評価される、将来を望まれる所以である。今回の優勝は主将を中心としたチームワークの勝利といわれている。正にその通りで部員がみな悩みながらも意識を失なわず毎日の練習に耐えてきた結果である。

きびしい練習は決して他人や大学のためではない。自分を高めるためであり、自身の人生のためである。この認識について努力を重ねることが柔道修業の原点であり結果的に勝利に結びつくことになる。

意識という言葉をすいぶん使ってきたが、「稽古は自分自身のため」ということの要訳である。

東海の山下君が「最後まで負ける気がしなかった、どこかにおごりがあつたのか」とコメントしている。もし、そなだとすれば力と意識のバランスがとれなかつたから、ということなのか、あの豪華メンバーを思えばそういうわざはない。

コーチ・会報編集担当
三三年度 (株)豊田総研

戦うメイジ

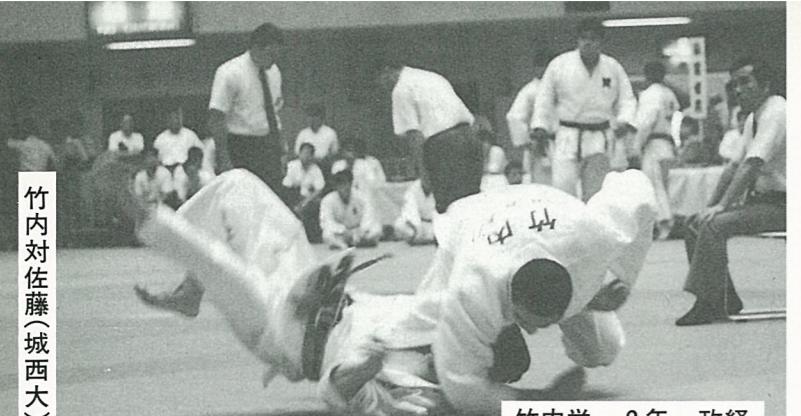
竹内対佐藤(城西大)



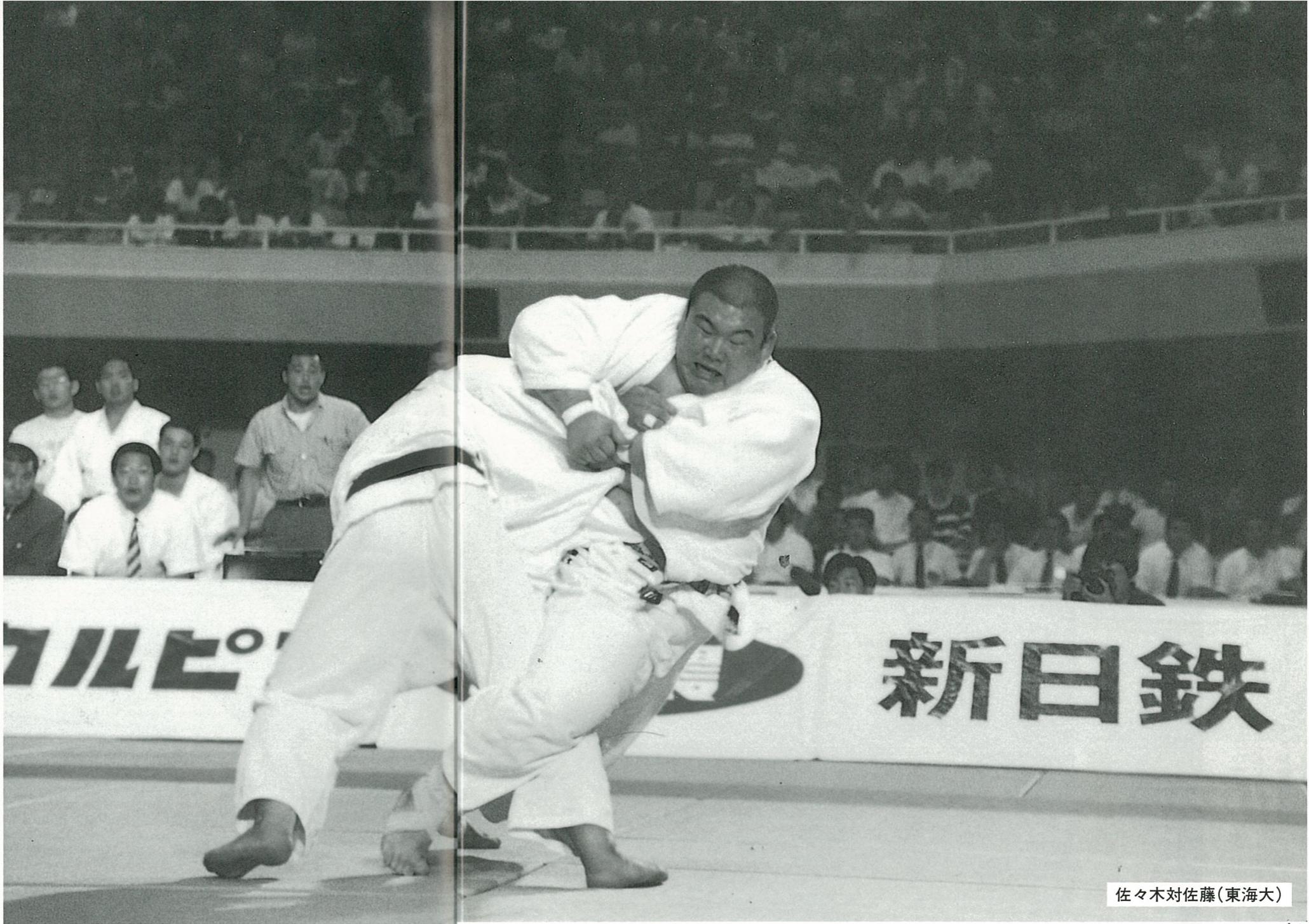
竹内栄・2年・政経



鉢呂対細川(国際武大)



秀島対原口(東海大)



佐々木対佐藤(東海大)

優勝お目出度う御座います。



金子 泰興

テレビで観戦しましたが、決勝で強敵東海大を息詰まる接戦の末に下し、念願の優勝が決まった瞬間、感激で目頭が熱くなりました。雌伏十九年、積もりに積もっていたうつ憤をいっぺんに晴らすことができ、これ以上の喜びはありません。

柔道部史上に燐然と輝くこの度の優勝は、百瀬部長のご熟意と、原監督のよき指導のもと吉田主将を中心に部員全員が一丸となって鍛錬を重ねられた賜であると、深く敬意を表するものであります。

これからは追われる立場に立つわけですが、部歌にある通り、「取ルナラ取ツテミロ優勝旗・渡シヤセヌ」の気概をもってより一層の努力をお願いいたします。

二七年度



三船 芳郎

常勝明治の声が絶えて久しい苦節十九年今度の全日本学生柔道大会での優勝お目出度うございます。久々の優勝の声に私共OBにとつても欣喜雀躍の思いです。

本学も有望新人確保が至難の環境での今回の快挙、これも皆さんの日々研鑽の賜です。その御努力に対し心から敬意を表すと共に御同慶に耐えません。

これを機として精進を積まれV2、V3を達成されますよう祈念致します。

十八年度 三進工業株

増田対萩原(大阪産大)



増田洋一・2年・法

松本対中村(近大)



大瀧対中村(東海大)

町山対岡田(城西大)



宮島 龍治

久々の快挙おめでとう、小生は昭〇一五年の五年間に葉山先輩以下当時も黄金時代で学生界では敵がなく全警視庁全九州軍とも対戦し共に優勝天下に明大柔道部ありと名聲をあげたものです。

其後先輩後輩達の努力に依り輝かしい伝統と名聲を守り続けてる現在、小生も大きな誇りを感じております。今後共明大柔道部の永遠の栄誉を祈念しております。

一五年度 長野中央開発㈱



川口 孝夫

「喜びの声」

ここ数年全日本学生大会を見学できる機会に恵まれていた私が今回に限り広島にいた。夕刻、帰宅した私に家内が「明治が優勝したよ!」と朗報を知らされ思わず「しまった!」と思つた。

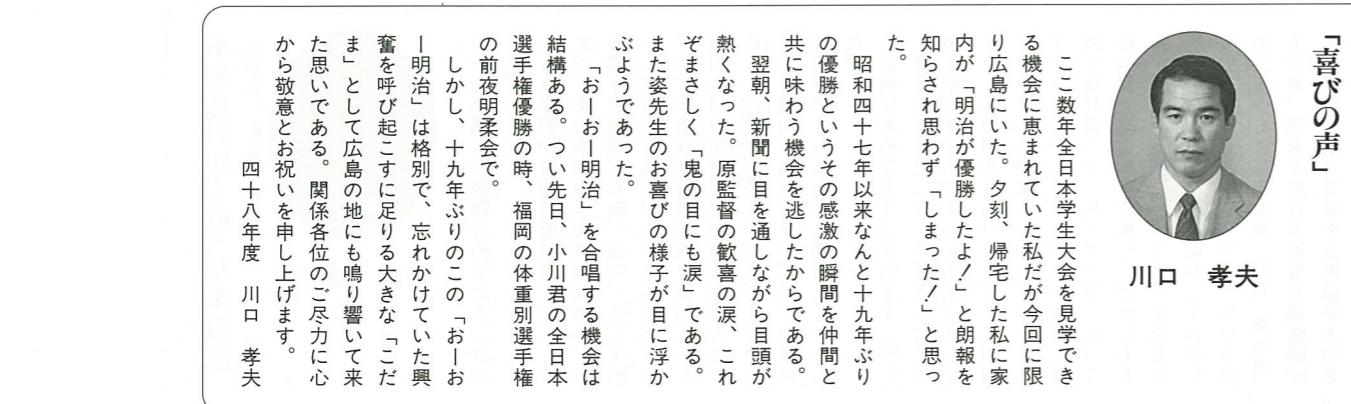
昭和四十七年以来なんと十九年ぶりの優勝というその感激の瞬間を仲間と共に味わう機会を逃したからである。翌朝、新聞に目を通しながら目頭が熱くなつた。原監督の歓喜の涙、これぞまさしく「鬼の目にも涙」である。また姿先生のお喜びの様子が目に浮かぶようであった。

「おーおー明治」を合唱する機会は結構ある。つい先日、小川君の全日本選手権優勝の時、福岡の体重別選手権の前夜明柔会で。

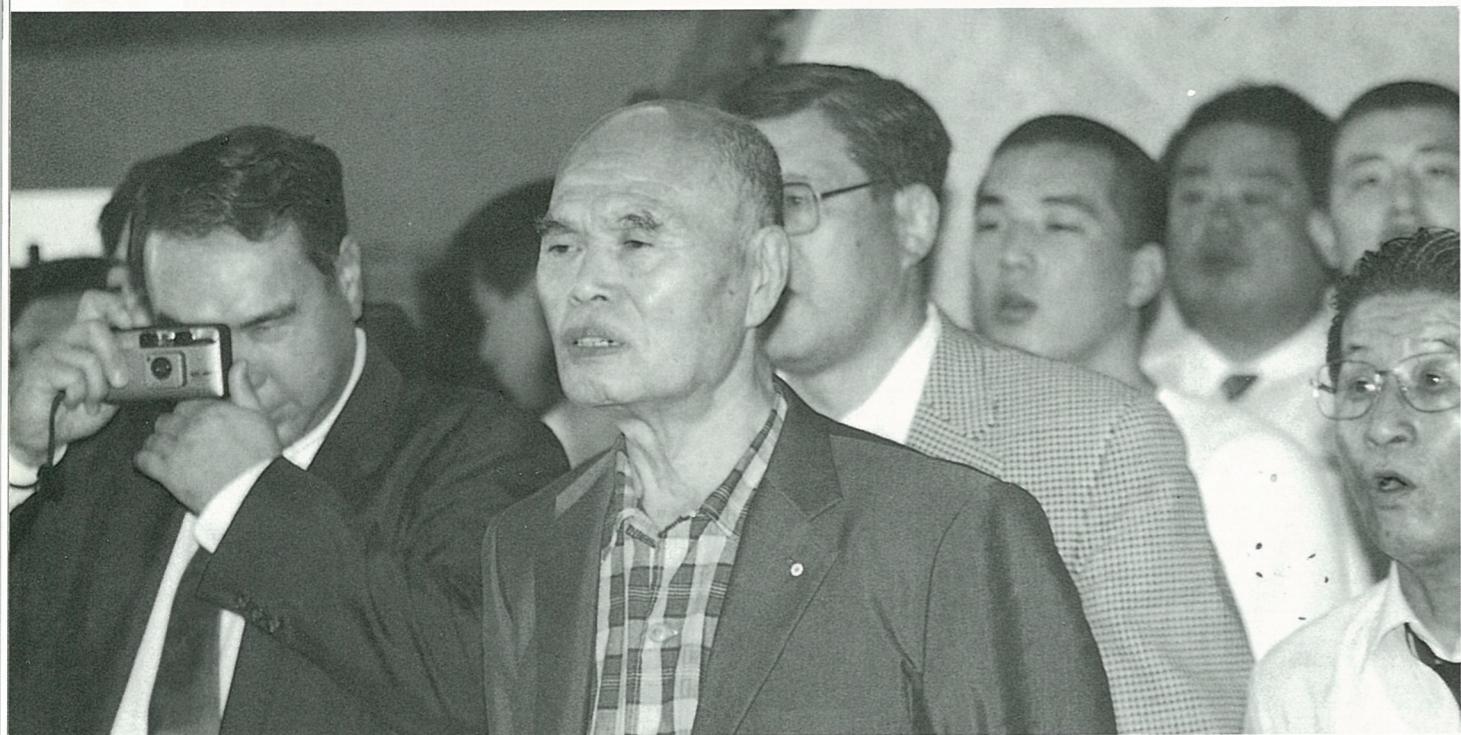
しかし、十九年ぶりのこの「おーおー明治」は格別で、忘れかけていた興奮を呼び起こすに足りる大きな「こだま」として広島の地にも鳴り響いて来た思いである。関係各位のご尽力に心から敬意とお祝いを申し上げます。

四十八年度 川口 孝夫

読売新聞提供



優勝の歌武道館にひびく



不死鳥の如く甦った柔道部



高田 誠之助

一九年振りの優勝おめでとうございます。
ここ3年前から特に感じたことが
ですが、全日本学生大会前の激励会での
各選手の明朗、颯爽、激刺、そして勢
い満ちた雰囲気が今年は特に盛り上
がっている状況を垣間見又復調なつた
吉田主将の元気な姿に接し古いことわ
ざにも「陽気の発する処金石また透る」
という警句がありますが、必ずや優勝
に導いてくれるものと期待しています。

本当におめでとうございます。
翌日の戦評記には「東海大、天理大、
近畿大、明治大といずれが勝つてもお
かしくない陣容であったが、正に明治
大学の執念の優勝であった」と記され
ていましたが私はこの一九年振りの優
勝を振り返って、先の三大学に比べて
経済面、部員数等で厳しい環境にある
我が明大柔道部にとって、学生部員の
努力もさることながら昭和二十六年か
ら引き続き師範をして下さっている姿
先生を中心神田先輩、関君、篠巻君、
上村君、原君と歴代の監督と現監督、
そして昭和五十五年から部長をお引き
受けいただいている百瀬先生のご協力
と明柔会諸賢の柔道部に対する熱い思
い合いで一糸乱れず全員一丸となつて
の優勝ではないかと痛感しています。

そしてこれを起爆剤として年来の宿
願である合宿所建設が実現し、よりよ
い環境で学生部員がますます健闘され
ることを心より記念する次第です。

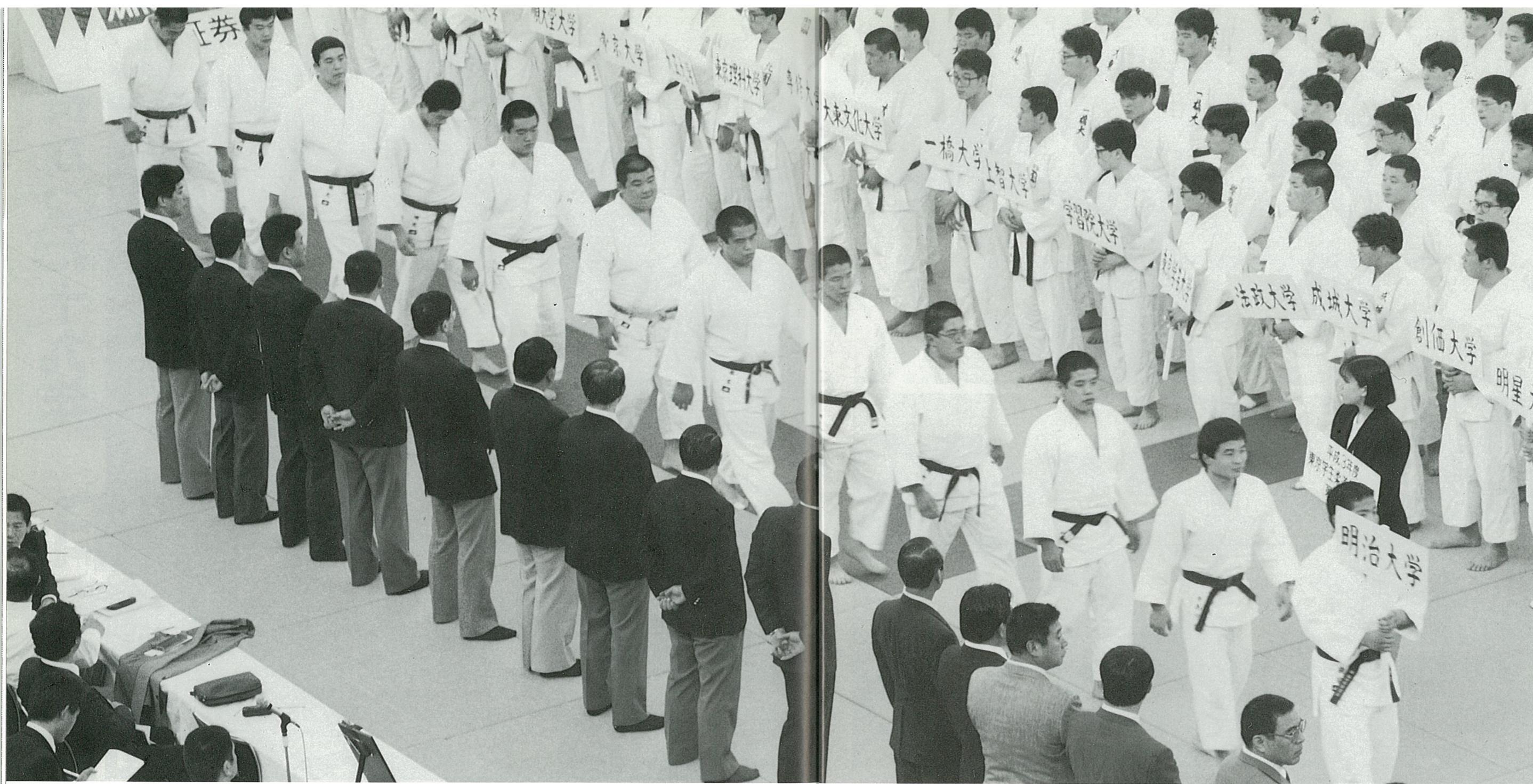
三十六年度 勝誠和

全日本学生柔道大会を観戦して
山本 忠夫

今年度は記念大会の為、全国より一
四〇校参加して六月二九、三〇日と二
日間に渡り熱戦が行われた。関西方面
の新聞予想では、近大、天理大、東海
大、明大が優勝候補とのことでした。
私にとって一回戦から観戦するのは卒
業して初めてのことです。母校の優勝
を念じながら汗をふきふき観戦いたし
ました。新聞予想通り準決勝戦は近大、
決勝戦は東海大と抜群のチームワーク
で勝ち進み念願の一九年ぶりに大学チ
ャンピオンの座に返り咲きました。O
B、監督、選手たちも皆、男泣きだっ
た。この勝利は原監督、重松助監督、
ムワークの勝利とおもいます。
監督、助監督、選手おめでとう。学
生諸君2連覇を目標に精一ぱい頑張っ
て下さい。

三九年度 明治管材㈱

明大チーム入場



観戦記



謙訪 剛

「オーオー明治」の校歌が日本武道館内に響き渡った。実に一九年振りのV奪回だ。最近の学生柔道界は山下選手の入学後、東海大学の天下が続き、昭和五十二年初優勝以来十回の優勝、通算優勝回数もトップの明大に迫っていたのが記念する四十回大会に我が明大は十三度目のVを決め、喜びも一しあであった。原監督以下、学生諸君の日頃の努力に敬意を表したい。

今大会を振り返ると戦前予想では東京大会を制し、三連覇を狙う東海大学を筆頭に昨年二位で関西大会優勝の近畿大学、それを追う天理大学、明治大学というところであった。予想通り、四強が顔を揃え、ベスト4による準決勝、決勝は手に汗を握る熱戦であった。準決勝の近大戦は取り、取られつの大激戦、③対③同スコア、大将戦となり、二年生の佐々木が登場、明大側としては忘れもせぬ、昨年の悪夢を思い出す。息づまる長い五分間であったが佐々木頑張り引き分け、辛くも内容勝ち、昨年の雪辱果たす。

最後の決勝東海大戦も一点を争う緊迫した展開となり、次鋒松本が技有りを先取されたが逆転の大外刈り一本ノ結局これが決勝点となつた。

今年の明大は団体戦で一番必要な各選手が自分の役割、使命を心得ていた。バルセロナ開催、世界選手権日本代表吉田主将、ファイトマンで今大会「ブック倒レルマデ、ヤツタルゾー」の気迫を感じさせた岡部副王将の四年生コンビを中心腰痛乍ら奮闘の秀島、大瀧の三年生、決勝点を挙げた松本と佐々木の二年生、そして弱冠一年生で小柄乍ら大健闘の鉄谷、各選手が持ち味を充分發揮出来たのが一番の勝因だったと思う。試合後東海大山下監督のコメントに最後まで勝てると信じていたがとあつたが常勝東海大には才ゴリがあつたようだ、明大も勝つて力の氣迫を締め、チャレンジヤー精神を失わず、来年も連覇を目指し、尚一層の精神を期待する。

五十二年度 京葉ガス㈱



おめでとうございます。

加瀬 次郎

「全日本学生団体優勝大会」優勝おめでとうございます。私が四十八年に入学して以来、初めての優勝で私達同期を含め何もの後輩達がくやし涙を流して卒業していったと思います。また、明大柔道部の「優勝の歌」も若いOBには歌われず先輩から後輩へ引次られてきました。今後は明大柔道部の黄金時代がくることを祈願しております。学生はもとより関係者の皆様本当にごくろうさまでした。

五十二年度 京葉ガス㈱

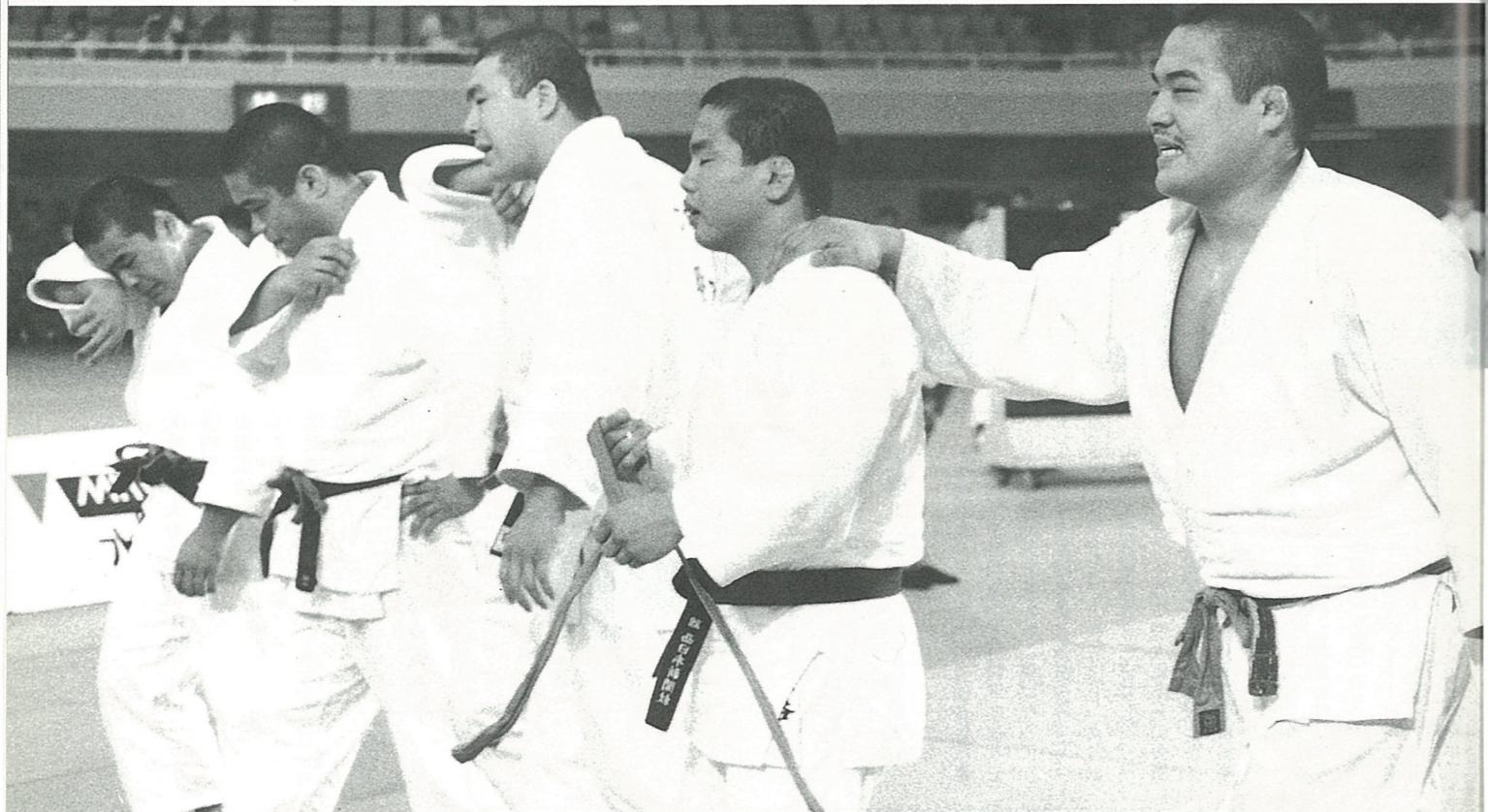
長かつた十九年



毎日新聞社提供

4連覇達成にも平然と (S39年)

印象的!?



涙また涙の19年目 (H3年)

優勝おめでとうございます。



山口 吉暉

十九年ぶり、我々明柔会々員の正に悲願の優勝であった。テレビ観戦であつたが、それだけに、一対一で迎えた決勝の大将戦は、一瞬時計が止まつてゐるのではないかと思える程永く感じられた。引分けの判定の瞬間、一気に身体中の力が抜け画面に映し出されるOB諸兄の喜びの輪の中に、いつしか自身が同化してしまつっていた。久方振りの興奮であった。

部員諸君は勿論であろうが、姿先生をはじめ道場で直接ご指導に当たられた方々にとつては、その道程が永かつただけに、勝者のみに許される優勝の味にも、今までにはなかつた格別の味わいがしたであろうと心からお慶び申し上げる次第であります。一度味わつた美酒はまた味わいたくなるもの、部員諸君の益々のご活躍を祈念して止みません。

十八年度 千葉県勝浦市市長

部員紹介

△一年生△

△山本兼治△

△内股、裏投△

△一七二cm、八七kg

△福岡県大牟田市・柳川高校

△鉄谷竜三△

△一七〇cm、八六kg

△熊本県熊本市・世田谷学園高校

△内股、そで釣込み腰△

△浅野光秀△

△一七〇cm、八六kg

△岐阜県各務原市・中京商業高校

△背負投、内股△

△一七四cm、一一〇kg

△福岡県大牟田市・柳川高校

△内股、裏投△

△一七八cm、八七kg

△東京都江戸川区・明大中野高校

△内股、私腰△

△一七二cm、八六kg

△札幌市中央区・明大中野高校

△内刈、内股△

△一七八cm、八五kg

△千葉県千葉市・千葉高△

△内股、私腰△

△一七八cm、一一五kg

△愛知県安城市・世田谷学園高△

△内股、大外刈△

△一七九cm、一四五kg

△北海道砂川市・旭川竜谷高△

△内股、私腰△

△一八〇cm、一〇〇kg

△北海道浜益郡・旭川竜谷高△

△内股、私腰△

△一八三cm、一〇〇kg

△内股、私腰△

△莊司泰博△

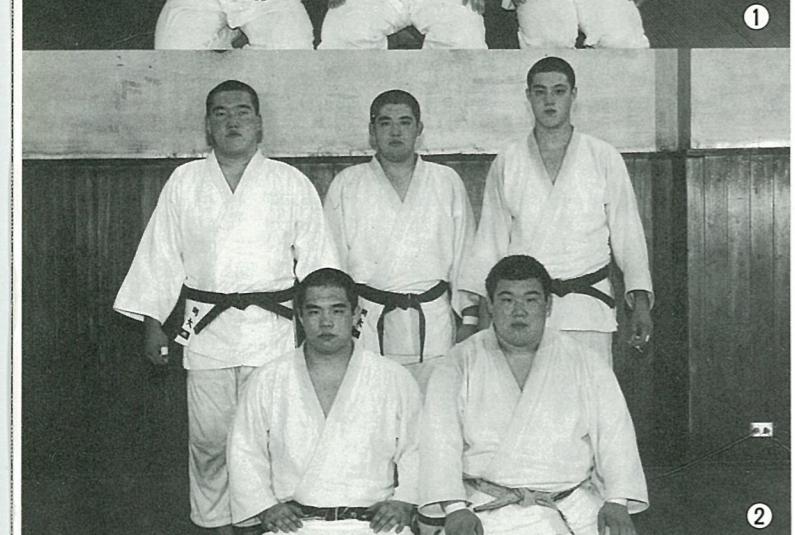
△一八〇cm、一一五kg

△内股、私腰△

△桑嶋渡△

△内股、私腰△

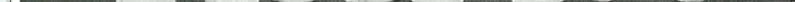
△内股、裏投△



①



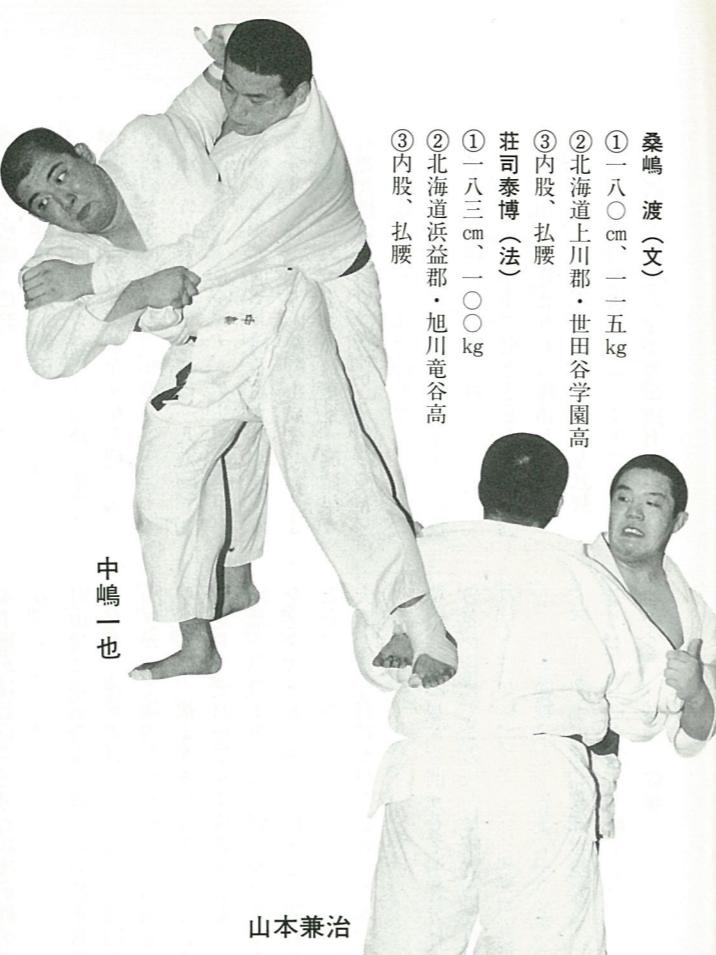
②



③



④



中嶋一也

山本兼治

△後列左より

△森啓眞△

△政経△

△一七〇cm、一二五kg

△東京都江戸川区・明大中野高校△

△内股、私腰△

△大内刈、内股△

△植草毅△

△政経△

△一八〇cm、八五kg

△千葉県千葉市・千葉高△

△内股、私腰△

△一七二cm、八六kg

△札幌市中央区・明大中野高校△

△内刈、内股△

△一七八cm、九五kg

△宮城県仙台市・東北高△

△内股、私腰△

△一七〇cm、七一kg

△千葉県市川市・千葉商大付属高△

△内股、裏投△

△一六五cm、六五kg

△熊本県熊本市・世田谷学園高△

△内股、裏投△

△一六〇cm、九八kg

△秋田県湯沢市・秋田高△

△内股、裏投△

△一七三cm、七六kg

△宮城県仙台市・仙台第二高△

△内股、裏投△

△一七七cm、八六kg

△神永洋一△

△理工△

△一七三cm、七六kg

△内股、裏投△

△一七七cm、七六kg

△内股、裏投△

△内股、裏投△

△内股、裏投△

△内股、裏投△

△内股、裏投△

今度は、十二月の団体選抜で名実共に日本一の座を賭けてお互いに頑張ろう。

五四年度

新日鉄

優勝をふり返つて

栗原三千男

十九年ぶりの優勝おめでとうござります。それも宿敵東海大を倒しての優勝だけに、悲願達成の瞬間は感激一入でした。

今回の優勝を私なりに振り返り分析すると、大砲の存在はチームに安心感を与える、戦略的(オーダー)にも計算できる。

①主将吉田選手を軸に非常にまとまつたチーム

大砲の存在はチームに安心感を与えるが、これにおこらずチャレンジャー精神を忘れず連覇を目指し精進してほしい。

③軽量級(秀島・鉄谷選手)の健闘祝勝会にも出席できないほど腰の痛みを堪えた秀島選手。決勝戦、一年生ながら先取点を死守し、闘志あふれる試合を行った鉄谷選手、先輩連中は見習うべきではないだろうか。

以上の事で優勝に結びついたと思うが、これにおこらずチャレンジャー精神を忘れず連覇を目指し精進してほしい。

三十五年度 イトーヨーカ堂

△写真前列左より

△松本昌広△

△文△

△一七八cm、一一五kg

△愛知県安城市・世田谷学園高△

△内股、大外刈△

△佐々木伸也△

△経営△

△一七九cm、一四五kg

△北海道砂川市・旭川竜谷高△

△内股、私腰△

△一七八cm、一〇〇kg

△北海道浜益郡・旭川竜谷高△

△内股、私腰△

△一八〇cm、一一五kg

△北海道上川郡・世田谷学園高△

△内股、私腰△

△一八三cm、一〇〇kg

△北海道浜益郡・旭川竜谷高△

△内股、私腰△

△一七八cm、一一五kg

△北海道上川郡・世田谷学園高△

△内股、私腰△

△内股、私腰△

△写真前列左より

△増田洋一△

△法△

△一八〇cm、一二〇kg

△北海道岩内郡・小樽潮陵高△

△払腰、内股、裏投△

△一七四cm、一一〇kg

△福岡県大牟田市・柳川高△

△体落し、内股△

△一七六cm、九五kg

△広島県広島市・崇徳高△

△体落し、背負投△

△一七七cm、八六kg

△宮城県仙台市・仙台第二高△

△内股、裏投△

△一七三cm、七六kg

△神永洋一△

△理工△

△一七三cm、七六kg

△内股、裏投△</p

勝利のあと

会報編集部

思えば四十年



第一回大会優勝の部員潔伊澤

全日本学生連盟結成四十周年という

記念すべき大会に北は北海道から南は沖縄まで大学四〇校が参加し、我が母校明治大学柔道部はその頂点に立った。

思いおこせば我々四年生(曾根門屋、松本昌広(二年生)もこの試合から出場、左内股「技有り」からあっさり押え込む、二三〇秒。

中嶋も寝技のチャンスをのがさなかつたので、力の下のものは持たせて勝負ができる。予裕がほしい、三分右払腰が鮮かに決まる。

大産大的先鋒は軽量級、動き回って組ませない作戦に出たが、鉄谷は動きをよくとらえ相手のタックルを内股に変化して「技有り」次いで小内刈「有効」から押え込む。一分四〇秒。

竹内の立技のキレには評価があるところだが、力の下のものは持たせて勝負ができる。予裕がほしい、三分右払腰が鮮かに決まる。

町山はこの試合も一五〇kgの超重量級とあたる。体重差は実に六八kg。何回もかば形のようになります。五秒。

次鋒、竹内栄(二年生)は一八六cmで九五kg級、一五一kgでスンギリ型の相手を長いリーチで引ずり回し右大外刈で一本二分三〇秒。七八kg級町山成信(三年生)の相手はこのチームの最重量、開始早々、右背負投に入つて「技有り」。その後も一方的に攻めるが一本のはがす。

怪力岡部善隆(四年生)、内股をすくい投げでつぶし押える。四〇秒。

中嶋也(二年生)引き手をきらつて動き回る相手を片えりから体落し、二分。

大瀧賢司(三年生)絵のような左払腰、何回もかば形のようになります。三〇秒。大将増田洋一(二年生)腰を引いて逃げるところを小外掛技有り、その

大瀧、二度目にかけた払腰で一本。一分三〇秒。

増田は闘志がから回りして引き分け、力の差から見てこの辺りは確実にとらなければいけない。

四回戦

明大 7—0 愛知学院大

○山本—崩けさ固—下崎

○松本—けさ固—佐藤

準々決勝

明大 3—3 近畿大

○秀島—有効—阪部

岡部—注意—武村○

鉄谷—警告—川上○

○吉田—合せ技—杉田

○松本—けさ固—中村

大瀧—技有り—奥山○

佐々木—引分—中村

実に三十数年間、関西地区の王座を守つていた天理大が昨年、今年と近畿大に負けている。明治は本大会でこれまで何度も近大とあたつて来たが昨年の準決勝でついに一敗を契した(同点内容負け)。

明治は温存していた秀島を先鋒に起用、明治は温存していた秀島を先鋒に起用、

ついで天理大が昨年、今年と近畿大に負けている。明治は本大会でこれまで何度も近大とあたつて来たが昨年の準決勝

でついに一敗を契した(同点内容負け)。

明治は温存していた秀島を先鋒に起用、

ついで天理大が昨年、今年と近畿大に負けている。明治は本大会でこれまで何度も近大とあたつて来たが昨年の準決勝

でついに一敗を契した(同点内容負け)。

まま総四方固で押える。一分三〇秒。

○中嶋—崩上四方固—都島

○吉田—大外刈—北野

○鉄谷—そで釣込腰—石津

○佐々木—けさ固—塙崎

○大瀧—崩けさ固—前川

○中嶋—上四方固—植田

○竹内—払腰—上原

○大瀧—払腰—久保

○増田—引分—萩原

○岡部—横四方固—岩崎

○竹内—横四方固—長谷川

○大瀧—横四方固—植田

○岡部—横四方固—岩崎

○竹内—横四方固—土方

○中嶋—体落—斎藤

○大瀧—払腰—仁羽

○増田—縦四方固—岡田

明治は二回戦から登場、先鋒一年先鋒谷竜三、組むや、いきなり左大腰に入れ長いリーチで引ずり回し右大外刈で一本二分三〇秒。七八kg級町山成信(三年生)の相手はこのチームの最重量、開始早々、右背負投に入つて「技有り」。その後も一方的に攻めるが一本のはがす。

怪力岡部善隆(四年生)、内股をすくい投げでつぶし押える。四〇秒。

中嶋也(二年生)引き手をきらつて動き回る相手を片えりから体落し、二分。

大瀧賢司(三年生)絵のような左払腰、何回もかば形のようになります。三〇秒。大将増田洋一(二年生)腰を引いて逃げるところを小外掛技有り、その

大瀧、二度目にかけた払腰で一本。一分三〇秒。

増田は闘志がから回りして引き分け、力の差から見てこの辺りは確実にとらなければいけない。

四回戦

明大 7—0 群馬大

○山本—崩けさ固—下崎

○松本—けさ固—佐藤

○吉田—崩上四方固—山口

○大瀧—払腰—堺

○松本—内股—寺田

○大瀧—払腰—堺

○佐々木—引分—川添

○大瀧—技有り—奥山○

明大 3—0 国際武道大

○吉田—注意—吉川

○松本—引分—北島

○鉄谷—引分—細川

○吉田—反則—金井

○山本—引分—小西

○佐々木—引分—西田

○大瀧—棄権—志村

関東地区二年連続優勝の武道大、本大会で明治とは五年ぶり二回目の対戦、前回は明治が6—0で快勝している。

先鋒に起用された岡部のパワフルな攻撃に守勢一方にたつた吉川に「注意」があたえられる。

松本攻勢、鉄谷互格で引き分け、吉田と対戦した武大主将の金井は、西田、志村とともに武大の柱、金井は重量、吉田は中量であることから明治サイドもやや緊張したが、金井は始めから防ぎよ一點ばかり、注意警告からついに反則負け。技術の差もさることながら、ポイントゲッター同志の勝負がこうゆうかたちで終つたことは、この段階でほぼ勝負の行方がきまつたといえる。

山本の相手小西は金井と逆に立ちあがりから攻勢にてたが中盤でスタミナが切れ、逆に前半をしのいだ山本にチヤンスが出てきたが結局は引分け、佐々木は戦局を見たかたちで引き分け、ここで明治の勝利はきまる。

チームの勝敗から解放された大瀧はすでに気魄で相手を圧倒、一分すぎ得意の左組みから右大外刈にいけば大きいくどぶ。

しかし引き手不十分だったため胸から落ちて「有効」とまる。武大志村はそのままショックで起き上がることが出来ず試合は中断。結局、戦意喪失で棄権、大

瀧が分けたあと、松本内股、二分、大

瀧払腰、二分四〇秒、と実力差を見せ、関西の実力校京産大を6—0で破つて上ってきた福岡大を一蹴した。

明大 7—0 城西大

○吉田—注意—吉川

○松本—引分—北島

○鉄谷—引分—細川

○吉田—反則—金井

○山本—引分—小西

○佐々木—引分—西田

○大瀧—棄権—志村

明大 3—0 国際武道大

○吉田—注意—吉川

○松本—引分—北島

○鉄谷—引分—細川

○吉田—反則—金井

○山本—引分—小西

○佐々木—引分—西田

○大瀧—棄権—志村

明大 7—0 城西大

○吉田—注意—吉川

○松本—引分—北島

○鉄谷—引分—細川

○吉田—反則—金井

○山本—引分—小西

○佐々木—引分—西田

○大瀧—棄権—志村

明大 3—0 国際武道大

○吉田—注意—吉川

○松本—引分—北島

○鉄谷—引分—細川

○吉田—反則—金井

○山本—引分—小西

○佐々木—引分—西田

○大瀧—棄権—志村

明大 3—0 国際武道大

○吉田—注意—吉川

○松本—引分—北島

○鉄谷—引分—細川

○吉田—反則—金井

○山本—引分—小西

○佐々木—引分—西田

○大瀧—棄権—志村

明大 3—0 国際武道大

○吉田—注意—吉川

○松本—引分—北島

○鉄谷—引分—細川

○吉田—反則—金井

○山本—引分—小西

○佐々木—引分—西田

○大瀧—棄権—志村

明大 3—0 国際武道大

優勝おめでとう

作家 豊田 穣



優勝・第40回 全日本学生優勝大会

明大柔道部の優勝おめでとうございます。聞くところによりますと、たしか19年ぶりの優勝とか。私の頭の中では、柔道はメイジ」と云うイメージが強かつたため、そんなに長い間優勝から遠ざかっていたとは思いもよらんませんでした。それどころのところの明治大学のイメージが若干暗かっただけに、監督・選手はもちろん関係者・OBの皆さんのが喜びはひとしおと察しいたします。が、旧制中学（岐阜県・本巣中学）のころ、選手として活躍し全国大会にも出場したことがあります。たしか当時の中学生としては抜群の実力を誇った一世の大健闘手（戦後野球選手としても活躍）を擁した平安中学校を3-2で破った一戦などは、いまでも心に残っております。（そのころわれわれを指導していたいたい先生が、名前は失念いたしましたが明大出身の方だと記憶しております）。その後、海軍兵学校に進んだら常に稽古は欠かさなかつただけに、柔道とのふれあいはかなり深いものがあるといえましょう。

終戦後、数年たつて日本へ帰つてきた私は中日新聞に入社して、名古屋・東京で約30年近く、新聞記者生活を送ることになりましたが、その時に東京本社の総務部につとめていた明大OBの今松夫君（現在は社会事業部長であり、日本空手協会師範）と懇意になり、親しく益をくみかわしながらある時は人生を語り、また柔道・空手など武道の話をしても昔をなつかしがつたものです。現在は新聞記者時代のムリ（酒の？）がたたつてや、健康を害しておりますが、それでもマイペースで作家活動に励んでおります。これもひとえに昔柔道で鍛えた賜と深く感謝するこの頃です。できればもう一度元気になつて、明大柔道部の祝勝会などで若い人たちと益をかわしたいものだ」と心に願っております。

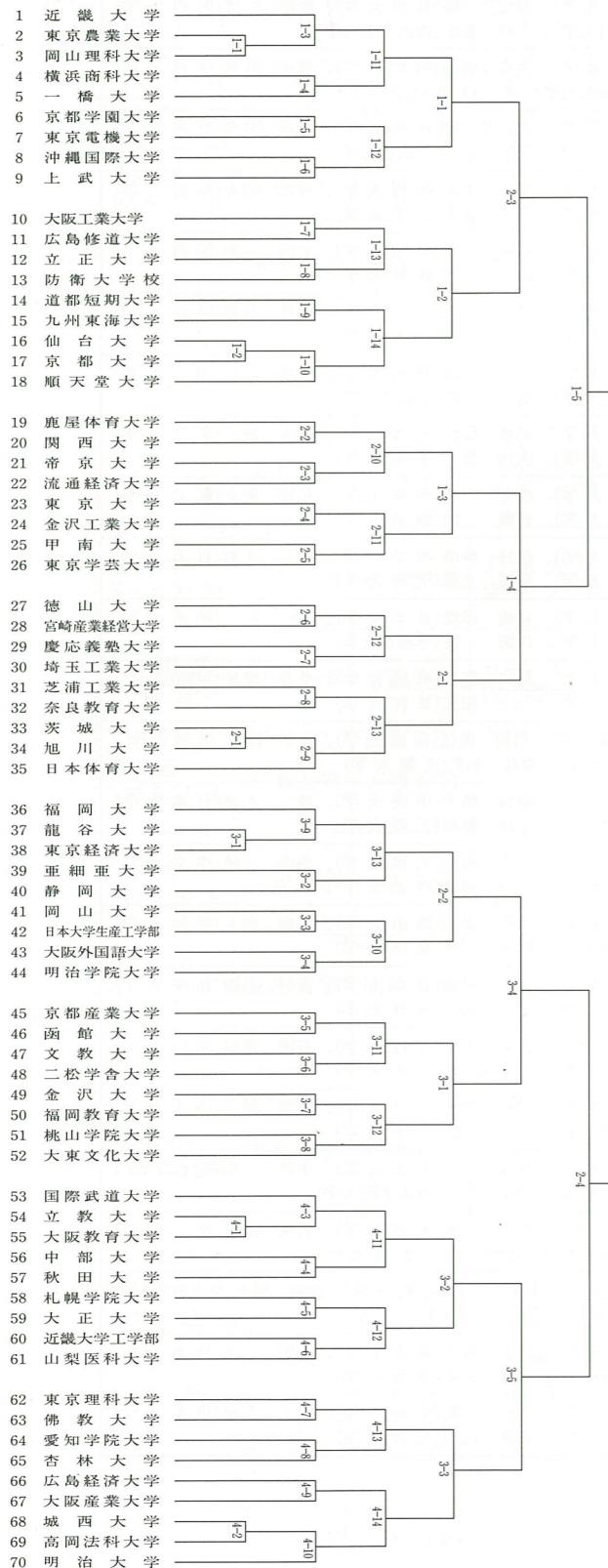
最後に明大柔道部の今後のさらなる健勝を心よりお祈りし、お祝いの文を終らせていただきます。



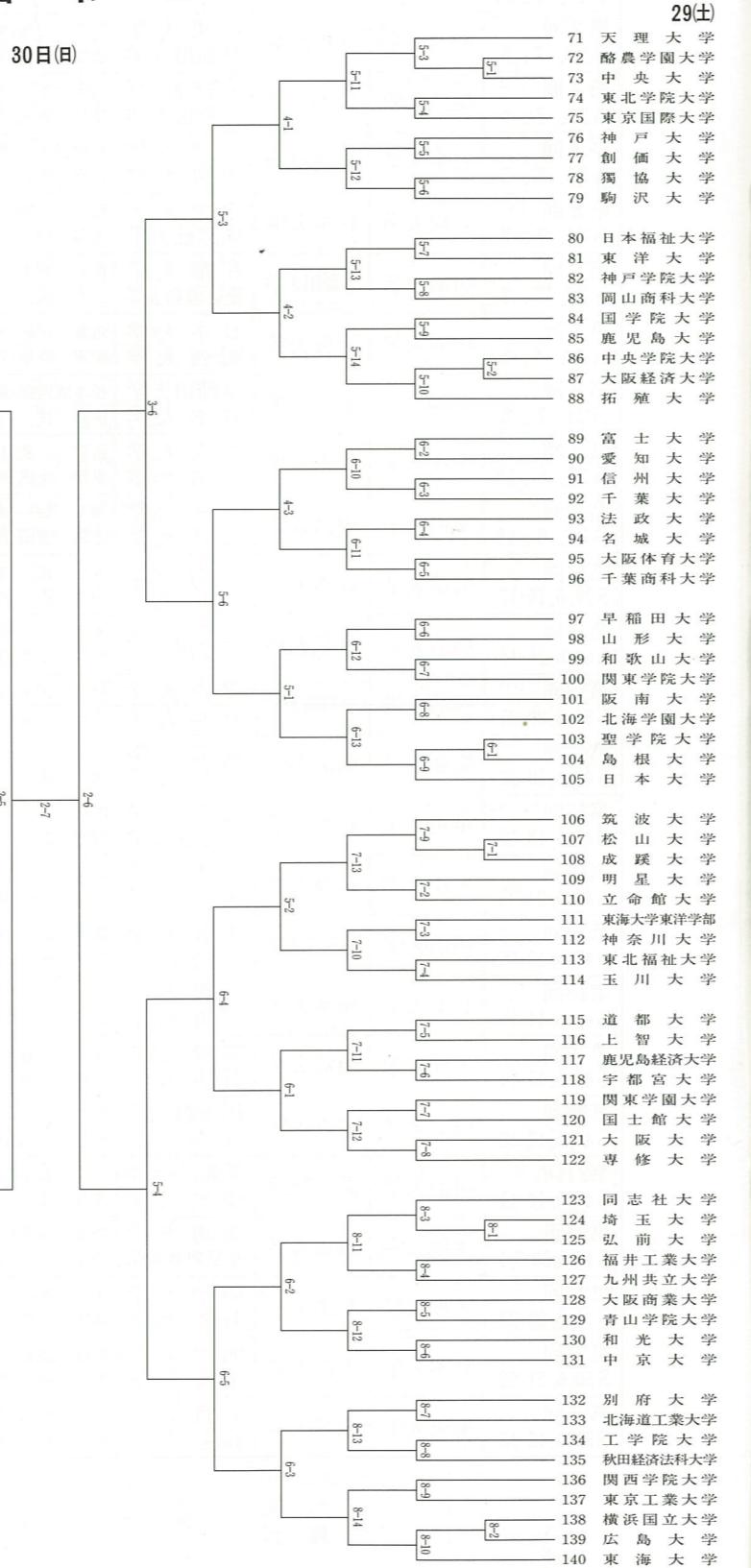
筆者紹介
「長良川」で直木賞を受賞し、現在も戯記・歴史小説その他執筆活動をつづけている。
71才、4段)

日本学生柔道連盟40周年記念 平成3年度全日本学生柔道優勝大会(40回) 組合わせ

29日(土)



30日(日)



全日本学生柔道優勝大会の戦績 (2)

	優勝	準優勝	第三位	優秀選手
第26回 S 52. 6. 12	東海大学	中央大学	日本大学 天理大学	山下 泰裕(東海大学)、渡辺 孝司(東海大学)、吉岡 剛(中央大学) 戸田 聰(日本大学)、道場 良久(天理大学)
第27回 S 53. 6. 11	東海大学	天理大学	京都産業大学 筑波大学	山下 泰裕(東海大学)、コバセビッチ(東海大学)、前川 勝(天理大学) 伊藤 久雄(京都産業大学)、松井 煉(筑波大学)
第28回 S 54. 6. 10	東海大学	日本体育大学	京都産業大学 大東文化大学	山下 泰裕(東海大学)、鈴木 賢一(東海大学)、川野 昭吾(日本体育大学) 川端 甚次(大東文化大学)、伊藤 久雄(京都産業大学)
第29回 S 55. 10. 26	東海大学	筑波大学	中央大学 天理大学	中西 英敏(東海大学)、コバセビッチ(東海大学)、青山 光一(筑波大学) 郷田 博史(中央大学)、中右 大泰(天理大学)
第30回 S 56. 11. 8	天理大学	国士館大学	東海大学 日本大学	石井 兼輔(天理大学)、正木 嘉美(天理大学)、斎藤 仁(国士館大学) 三原 正人(東海大学)、中村 義博(日本大学)
第31回 S 57. 9. 4・5	東海大学	天理大学	国史館大学 日本大学	滝吉 直樹(東海大学)、松島亨一郎(東海大学)、石井 兼輔(天理大学) 正木 嘉美(天理大学)、斎藤 仁(国士館大学)、渋谷 恒男(日本大学) 磯田 雅博(中京大学)、山本 邦彦(日本体育大学)、水谷 誠(専修大学) 宮崎 博道(筑波大学)
第32回 S 58. 9. 3・4	東海大学	天理大学	明治大学 日本大学	須貝 等(東海大学)、斎藤 和男(東海大学)、正木 嘉美(天理大学) 羽賀 善夫(天理大学)、渋谷 恒男(日本大学)、中村 正浩(明治大学) 堀 雅人(国士館大学)、三隅 慶郎(国学院大学)、園田 雅明(専修大学) 井上 浩二(中央大学)
第33回 S 59. 9. 1・2	東海大学	天理大学	明治大学 日本大学	須貝 等(東海大学)、桶川 純(東海大学)、正木 嘉美(天理大学) 野村 幸生(天理大学)、渋谷 恒男(日本大学)、朝飛 大(明治大学) 渡辺 浩穂(秋田経済法科大学)、朝比奈秀典(専修大学) 安松 宏幸(京都産業大学)、本田 一郎(同志社大学)
第34回 S 60. 6. 29・30	日本大学	国士館大学	天理大学 東海大学	村上 修司(日本大学)、持田 達人(日本大学)、山内 直人(国士館大学) 田中 利明(国士館大学)、野村 幸生(天理大学)、村田 正夫(東海大学) 井上 浩二(中央大学)、杉山 照彦(京都産業大学) 木曾 博(日本体育大学)、中川 正彦(国際武道大学)
第35回 S 61. 6. 28・29	天理大学	東海大学	日本大学 国士館大学	武藤 祐次(天理大学)、中谷 弘(天理大学)、村田 正夫(東海大学) 高波 善行(東海大学)、持田 達人(日本大学)、山内 直人(国士館大学) 古賀 稔彦(日本体育大学)、新垣 修(明治大学) 岡野 誠(近畿大学)、奥村 茂之(同志社大学)
第36回 S 62. 6. 27・28	東海大学	天理大学	日本体育大学 近畿大学	高波 善行(東海大学)、関根 英之(東海大学)、武藤 祐治(天理大学) 中林 千春(天理大学)、富保 清嗣(近畿大学)、菊地 伸(日本体育大学) 金野 潤(日本大学)、荒谷 昭彦(国士館大学)、飛松 和雄(明治大学) 中川 正彦(国際武道大学)
第37回 S 63. 6. 25・26	天理大学	東海大学	明治大学 近畿大学	中林 千春(天理大学)、安藤 弥(天理大学)、関根 英之(東海大学) 後藤 竜二(東海大学)、山崎 茂樹(近畿大学)、小川 直也(明治大学) 金野 潤(日本大学)、岡田 弘隆(筑波大学) 鎌野 義広(国際武道大学)、相馬 史人(国士館大学)
第38回 H 1. 6. 24・25	東海大学	明治大学	近畿大学 天理大学	甲斐 康浩(東海大学)、下出 善紀(東海大学)、小川 直也(明治大学) 吉田 秀彦(明治大学)、竹村 典久(近畿大学)、徳田 真三(天理大学) 秋山 勝彦(日本大学)、酒井 英幸(筑波大学) 小西 誠(国際武道大学)、古賀 稔彦(日本体育大学) 優秀校 (ベスト8校) 日本大学、筑波大学、国際武道大学、日本体育大学
第39回 H 2. 6. 23・24	東海大学	近畿大学	明治大学 天理大学	甲斐 康浩(東海大学)、中村 佳央(東海大学)、奥山 由洋(近畿大学) 中村 善弘(近畿大学)、吉田 秀彦(明治大学)、小林 広幸(天理大学) 小久保純史(日本体育大学)、瀧本 義浩(日本大学)、増地 克之(筑波大学) 政岡 邦人(福岡大学) 優秀校 (ベスト8校) 日本体育大学、日本大学、筑波大学、福岡大学
第40回 H 3. 6. 29・30	明治大学	東海大学	近畿大学 天理大学	

栄光の記録

優勝	明治大学	13回	日本大学	7回	東京教育大学	1回
天理大学	10回		天理大学	7回	東洋大学	1回
東海大学	10回		明治大学	5回	東海大学	4回
日本大学	4回		早稲田大学	4回	日本体育大学	1回
中央大学	2回		中央大学	3回	筑波大学	1回
拓殖大学	1回		国士館大学	3回	近畿大学	1回
			拓殖大学	2回		

全日本学生柔道優勝大会の戦績 (1)

	優勝	準優勝	第三位	優秀選手
第1回 S 27. 9. 14	明治大学	日本大学	中央大学 早稲田大学	
第2回 S 28. 7. 5	明治大学	日本大学	中央大学 早稲田大学	河辺 一彦(明治大学)、藤根文一郎(日本大学)、堀田 浩(関西大学) 石井 勇(早稲田大学)、上村 喜正(西南学院大学)
第3回 S 29. 7. 4	明治大学	日本大学	天理短期大学 早稲田大学	山尾 英三(明治大学)、渡辺 欣嗣(明治大学)、渡辺 政雄(明治大学) 今村 春夫(天理短期大学)、野 口(九州大学)
第4回 S 30. 7. 3	日本大学	早稲田大学	明治大学 中央大学	石橋毅次郎(明治大学)、渡辺喜三郎(中央大学)、加辺 良美(日本大学) 古賀 正躬(天理大学)、三宅 倫三(早稲田大学)
第5回 S 31. 7. 8	天理大学	日本大学	中央大学 同志社大学	松下 三郎(日本大学)、米田 圭佑(天理大学)、神永 昭夫(明治大学) 太田 伸一(中央大学)、加辺 良美(日本大学)
第6回 S 32. 7. 7	明治大学	早稲田大学	拓殖大学 慶應義塾大学	神永 昭夫(明治大学)、徳永 三幸(明治大学)、岩田 兵衛(関西大学) 三宅 倫三(早稲田大学)、山口信三郎(拓殖大学)
第7回 S 33. 7. 6	明治大学	天理大学	日本大学 関西大学	古賀 正躬(天理大学)、神永 昭夫(明治大学)、甲斐 福男(明治大学) 柴田 康雄(関西大学)、永田 正明(日本大学)
第8回 S 34. 7. 5	天理大学	明治大学	早稲田大学 日本大学	松本成四郎(関西大学)、重松 正成(明治大学)、佐藤 治(明治大学) 伊藤 俊一(日本大学)、奥村 剛(早稲田大学)
第9回 S 35. 6. 18	天理大学	日本大学	中央大学 明治大学	古賀 武(日本大学)、前島 延行(天理大学)、熊本 誠一(天理大学) 重松 正成(明治大学)、大内 賢一(中央大学)
第10回 S 36. 6. 18	明治大学	中央大学	日本大学 天理大学	熊本 誠一(天理大学)、辻井 一男(中央大学)、神屋 興介(明治大学) 古瀬 良昭(関西大学)、佐藤 治(明治大学)
第11回 S 37. 6. 16・17	明治大学	日本大学	中央大学 (第四位)	坂口 征二(明治大学)、田村 興靖(明治大学)、平石 正則(日本大学) 山本 彰一(中央大学)、興田 光男(天理大学)
第12回 S 38. 6. 15・16	明治大学	天理大学	日本大学 (第四位)	遠畠 信一(天理大学)、白崎 淳悦(日本大学)、坂口 征二(明治大学) 村井 正芳(明治大学)、片岡 安(早稲田大学)
第13回 S 39. 6. 20・21	明治大学	早稲田大学	東洋大学 日本大学	村井 正芳(明治大学)、坂口 征二(明治大学)、長井 孝光(早稲田大学) 北村 明雄(日本大学)、三上 和宏(東洋大学)
第14回 S 40. 6. 19・20	拓殖大学	明治大学	近畿大学 天理大学	D・ロジャース(拓殖大学)、田畠 俊弘(拓殖大学)、坂本 鞠正(明治大学) 中山 圓一(天理大学)、香月 光英(近畿大学)
第15回 S 41. 6. 18・19	中央大学	日本大学	天理大学 同志社大学	関根 忍(中央大学)、中村 精次(中央大学)、統 正博(日本大学) 有沢 寛三(同志社大学)、平尾 勝司(天理大学)
第16回 S 42. 6. 24・25	天理大学	拓殖大学	中央大学 明治大学	妻島 憲二(天理大学)、二宮 和弘(天理大学)、西山 正晴(中央大学) 西村 昌樹(拓殖大学)、小村 和紀(明治大学)
第17回 S 43. 6. 15・16	明治大学	早稲田大学	東洋大学 関西学院大学	篠巻 政利(明治大学)、須磨 周司(明治大学)、安斎 奏人(明治大学) 中川 良夫(早稲田大学)、松田 邦孝(東洋大学)
第18回 S 44. 6. 14・15	日本大学	拓殖大学	近畿大学 天理大学	上口 孝文(日本大学)、村田 昭義(日本大学)、西村 昌樹(拓殖大学) 天田 三明(拓殖大学)、酒井 利広(天理大学)
第19回 S 45. 6. 13・14	天理大学	明治大学	拓殖大学 日本大学	諸井 三義(天理大学)、山家 久博(天理大学)、石橋 重則(明治大学) 一戸 隆男(拓殖大学)、高木長之助(日本大学)
第20回 S 46. 6. 12・13	明治大学	中央大学	国士館大学 日本大学	岩田 久和(明治大学)、鮫島 俊隆(明治大学)、後藤 誠一(中央大学) 中村 均(国士館大学)、田中 直樹(日本大学)
第21回 S 47. 6. 10・11	明治大学	国士館大学	青山学院大学 中央大学	上村 春樹(明治大学)、飯塚 栄(明治大学)、中村 均(国士館大学) 浅野 隆司(中央大学)、神守 恭二(青山学院大学)
第22回 S 48. 6. 30・7. 1	天理大学	明治大学	東海大学 東京教育大学	岩田 勝彦(天理大学)、松本 薫(天理大学)、吉永 浩二(明治大学) 中原 一(東京教育大学)、柏崎 克彦(東海大学)
第23回 S 49. 6. 22・23	天理大学	東京教育大学	明治大学 日本大学	橋元 秀利(天理大学)、角張 力(天理大学)、山藤 哲夫(東京教育大学) 嘉納 政美(日本大学)、原 吉実(明治大学)
第24回 S 50. 6. 21・22	日本大学	東洋大学	明治大学 東海大学	石橋 道紀(日本大学)、西山 倍平(東洋大学)、春田 栄(日本大学) 丸谷 武久(明治大学)、河内 正隆(東海大学)
第25回 S 51. 6. 12・13	中央大学	東洋大学	天理大学 拓殖大学	柴田 浩明(中央大学)、吉岡 剛(中央大学)、山下 泰裕(東海大学) 新 和己(拓殖大学)、高橋 政男(天理大学)

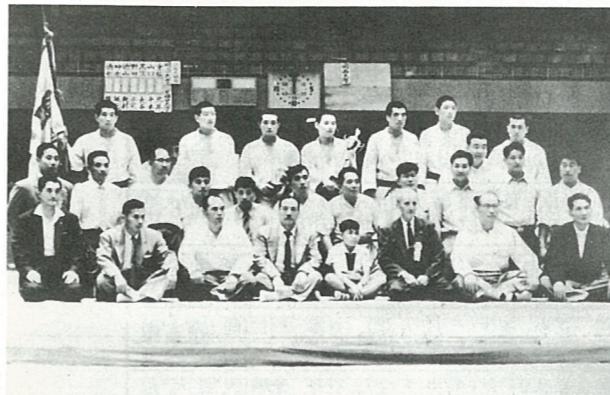
輝く歴史



優勝・第17回 全日本学生柔道優勝大会



優勝・第11回 全日本学生柔道優勝大会



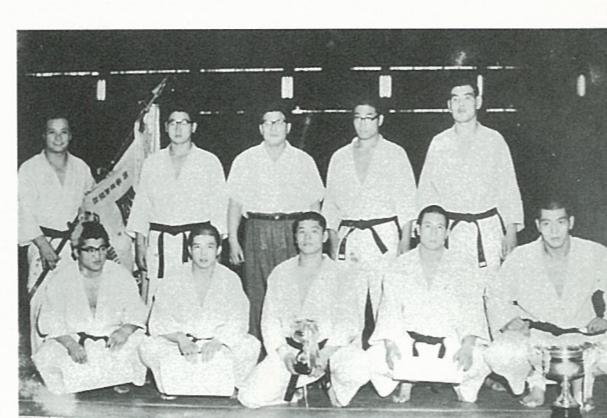
優勝・第6回 全日本学生柔道優勝大会



優勝・第1回 全日本学生柔道優勝大会



優勝・第20回 全日本学生柔道優勝大会



優勝・第12回 全日本学生柔道優勝大会



優勝・第7回 全日本学生柔道優勝大会



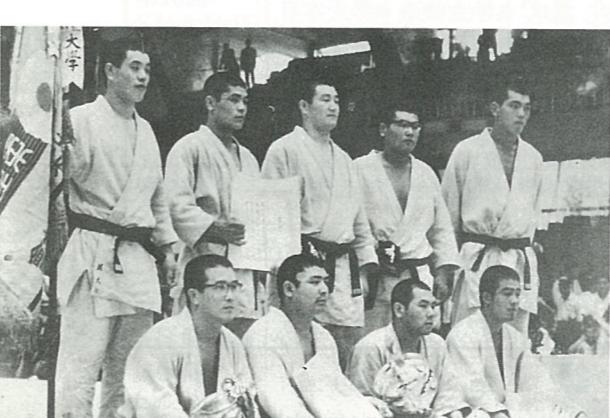
優勝・第2回 全日本学生柔道優勝大会



優勝・第21回 全日本学生柔道優勝大会



優勝・第13回 全日本学生柔道優勝大会



優勝・第10回 全日本学生柔道優勝大会



優勝・第3回 全日本学生柔道優勝大会

お待たせいたしまー!



祝 優勝

(有)真陽紙工所

専務 有田 幸訓

〒130 墨田区横川1-13-12
TEL 03-3624-7861

洗い美装工事
(新築木造、ビル、あく洗い、その他)

養生工事
(木造、ビル)

ダクト清掃工事
(清掃、修理)

定期清掃
(床面ワックス、ガラス、タイル)

M 明治管財株式会社

代表取締役 山本忠夫 (S39年度卒)

〒606 京都市左京区田中大久保町31番の4
TEL (075) 711-1617代
FAX (075) 721-9194

株式会社 和千

代表取締役社長 小山美津男
押上営業所 〒131 東京都墨田区押上2-6-1 西神ビル3F
TEL 03-3621-5871 FAX 03-3621-5873
本社 〒120 東京都足立区千住仲町26-2
TEL 03-3882 2580 FAX 03-3879-5270
NTT 030-208-3938 IDO 030-516-0084

東京都中央卸売市場大田市場

海老・練製品・塩干加工品問屋

海老晃

代表取締役 滝本満治
(S.31年度)

東京都大田区東海3丁目2番8号

TEL 5492-6307
FAX 5492-6308

自宅 東京都大田区山王3丁目18番2号
TEL 3778-2057
FAX 3778-3590

朝日産業株式会社

朝日新聞社新聞、出版物発送業務

代表取締役社長 水野留次郎
東京都港区芝浦3-8-17 TEL.(03)3456-0301

送電線路建設工事設計施工

高田電設株式会社



代表取締役社長 高田喜之
(昭和30年度卒)

本社 東京都新宿区大久保1-10-4

電話 03(3209)8241(代表)

支社・出張所 仙台・名古屋・札幌

株式会社 旭モールディング

常務取締役 福田田二朗
(S.33年卒)

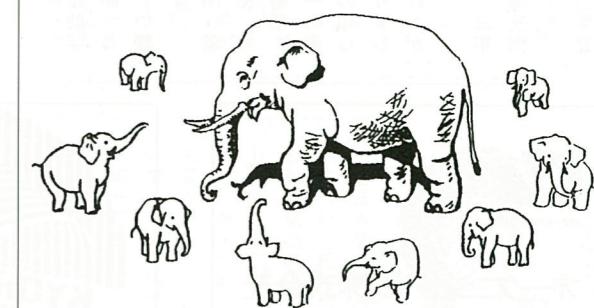
<プラスチックのご相談は当社まで>

本社・足立工場
〒120 東京都足立区宮城1-3-25
TEL 03(3919)3191(代)

祝 優勝

広告

**強い絆で!
BRINGING UP!**



企画力、技術の生かされた印刷

- PR関係美術印刷
- 事務用印刷・ビジネスフォーム印刷
- 出版関係印刷
- ポリエチレン・ポリプロピレン各種印刷
- 製袋・加工、各種加工成型、シール印刷加工



有限公司 渡辺欣勝堂
代表取締役 渡辺欣嗣

神田営業所 101 東京都千代田区神田三崎町2丁目21番10号
渡辺ビル4F 電話 (03) 3262-4635(代)
本社工場 115 東京都北区浮間3丁目5番28号
電話 (03) 3967-9317(代)

タオル製品専門商社

四国商事株式会社

〒165 中野区新井1-15-12

TEL. 03 (3386) 5664(代)

FAX. 03 (3386) 7619

代表取締役 浜本義典(S.51年卒)

専務取締役 浜本敏典(〃)

**後輩に一層の支援を!!
明柔会費納入のお願い**

振り込み先
関東地区会員

東海銀行東京営業所
店番号 620 普通 432 326
明柔会関東支部 入江秀明

振り込み先
関東地区以外の会員

三菱銀行鉄鋼ビル支店
店番号 004 普通 4216342
明柔会 吉井敬吉

新築住宅・マンション・土地の購入など、住まいに関するあらゆる資金づくりに長期ホームローンで。

東京都知事(2)第02526号
杉原産業株式会社
住宅ローンサービス株式会社

代表取締役 杉原構

TEL. 3371-5111
FAX. 3369-9999
東京都新宿区西新宿7-13-9
ムトービル

育栄管財株式会社

育栄警備保障(株)

社長 鳴海誠一



本社 新宿区百人町1-22-26
TEL (363) 6351 代表
青森出張所 三沢市栄町1-31-142
TEL 01765 (3) 6678
札幌出張所 札幌市豊平区美園四条1丁目(三光ビル)
TEL 011 (811) 1899

**紳士・婦人・子供
各種
帽子のミヤシタ**

(宮下光男 S.27年卒)

東京都葛飾区新小岩1-39-9
新小岩銀座アーケード街
電話 (3651) 0691

ステーキ&シーフード「バンフ」

秋田市山王1丁目6-7/淀ビル2F (0188)62-7800

真心サービスで社員一同
心からお待ちしております。



TOYOTA



株式会社 豊田自動織機製作所

祝 優勝

(有)新日本総合サービス
人事課課長 古島正三
〒141品川区東五反田1-9-4
ダイヤパレス五反田202
TEL 03-3447-7756 FAX 03-3449-2920

IICイメージローグリサーチセンター
本部事務局 近藤喜彦

株式会社 ダンジュー
代表取締役 段上秀馬
東京都足立区千住曙町37-10
TEL 03(3879)9121(代)
FAX 03(3879)9138

給食用食品卸
(株)富士産業
代表取締役 谷藤義明
(34年度卒)
〒173 東京都板橋区大谷口上町44-11
電話 (03) 3956-9615

飼料用外国産大麦・恵比須印圧ベニ麦・挽碎麦
二種混合飼料 コーンフレーク・醸造原料
製造販売
塙本食糧工業所
〒838 福岡県甘木市大字甘木2420
☎ 0946(22)2061~2代 FAX 0946(24)4564
福岡シティ銀行甘木支店
福岡銀行 甘木支店
取引銀行 筑邦銀行 甘木支店

総合解体業

株式会社
村上工業

代表取締役 村上光昭
〒272 千葉県市川市原木2393-3
電話 0473(28)0979(代)

小藤田整骨院

院長 小藤田勝彦
(S40年度卒)
東京都板橋区弥生町38-7
TEL 03-3972-0055

■ブティック エルミン(1F)
■般地とオーダー モードサロン さとう(2F)
(S42卒) 佐藤誠三
福山久松通り(霞町1丁目2-30)
TEL (0849) 23-2689
23-0310

台東区柔道会

(31年度卒)
理事長 丸山彰治

豊かな心で、大きな未来へ。
21世紀へ向って、着実に成長しています。
KINSHODO 株式会社 キンショードー

包装用品並びに梱包資材の製造加工
代表取締役 渡辺欣嗣
本社・工場 東京都北区浮間3丁目5番28号
〒115 電話 (03) 3967-9317番(代)
FAX (03) 3967-9408番
神田営業所 東京都千代田区三崎町2丁目21番10号
〒101 電話 (03) 3262-4635番

泉屋の

かまくら
思ひ出の味
おかげさまで50年 お好みの総合メーカー
株式会社 泉屋製菓本舗
名古屋
「33年度卒 伊藤彰郎」

春日接骨院

春日邦人(37年度)
〒189 東村山市富士見町5-1-77
電話 0423-93-5669

渋谷接骨院
根本整骨研究会理事
大田区柔道会常任理事
大田区立志茂田中学校講師
渋谷正久
自宅 〒145 東京都大田区西六郷3-18-1 ハースカハイツ102
TEL 03-3733-0850

ジャムの専門メーカー
JAS規格認定工場・輸出品製造承認工場
株式会社 スドージャム
営業所 東京・大阪・札幌・仙台 工場 松本
名古屋・福岡・松本 場 三木(兵庫県)
長野県松本市大字筆賀5958番地 〒松本26-6811

ボタン・服飾附属
鈴木商事有限公司
鈴木 強(46年度卒)
足利市八幡町82-12
電話(0284) 4616-4617

東京都住宅局指定施工業者
株式会社 チトセ塗装店
代表取締役 岩瀬進
本社 東京都世田谷区砧4丁目20番20号
〒157 電話 (03) 3417-7777番(代)
事業所 東京都世田谷区新町3丁目22番1号
(三竹ビル2階)
〒154 電話 (03) 3439-0077番(代)
FAX (03) 3439-0088番

21世紀の生活と文化をプロデュース
マンション分譲、住宅流通、不動産仲介、
ビル事業、ホテル・レストラン経営、旅行業
CLIO
明和グループ
MEIWA 明和地所
明和管材
明和エージェンシー
明和サービス
〒221 横浜市神奈川区鶴屋町2-21-8 第一安田ビル8階
☎ 045(316)0120(代表)

給排水衛生設備工事 冷暖房設備工事 TB式廃油専焼バーナー製造元 重油地下、屋内タンク設置工事 設備設計

伊澤管工株式会社

代表取締役 伊澤潔
(昭和27年度卒)

〒162 東京都新宿区余丁町11-34
TEL 3353-2345(代) FAX 3351-4042

各種ウエス 工業用クリーニング
安全用具一式

(株)立花商店

代表取締役 立花敏明
(34年度卒)

〒720 広島県福山市港町2-77
TEL 0849-23-0180

躍進

NEW JAPAN
PRO-WRESTLING


新日本プロレスリング株
代表取締役 坂口征二
〒106 東京都港区六本木6-4-10
TEL 03-3405-3111

祝 優勝

the cleaning people who care

SINCE 1974
MAYATRUT CO., LTD.

ハウスクリーニング・オフィスクリーニングのソーベル・マイン・エアコン・エアコン・

会社 マヤトラスト

〒168 東京都杉並区和泉1-33-18 豊富ビル2階

TEL 03(3324)8201 FAX 03(3324)8279

ダスキンサービスマスター事業部 カーペット・ハードフロア

室内、オフィス出張クリーニング・古屋あく洗い

ダスキン器の店事業部 モップ・マット・その他レンタル用品

代表取締役 松田幸次

くらしを考える水と空気のクリエイター

株式会社トキタ

空気調和・給排水衛生・消火栓設備

代表取締役 時田公代

〒174 東京都板橋区坂下1-17-19

TEL (03)3960-7701代

FAX (03)3558-6980

ゴールデンフレーム・オイルバーナー製造
冷暖房・給湯設備工事
蒸気温水ボイラーデザイン設備工事
自動制御盤設計製造

有限会社 ヤンマー技研

〒120 東京都足立区千住東2-6-5

TEL 03-3888-6666 FAX 03-3888-6668

食品業界に奉仕する中島グループ

中島興業株式会社 代表取締役 中島平人

水谷武史

中島畜産食品株式会社

総合本社

東京都墨田区太平168

☎ 東京03(3625)4129(代)

“貴社の在庫処分品

現金買取り致します!!”

全商いづみ商事

代表取締役 泉忠昭

〒161 東京都新宿区中井1-3-4

TEL 03-3954-4017

ビル管理の総合プランナー

共同設備サービス 株式会社

代表取締役 戸田儀美

〒161 東京都新宿区中井1-4-5

電話 03(3950)8841

本場広東料理の殿堂

浅草観音通り 商店街

(株)唐人商行

総支配人 平田博俊 (S.30年卒)

東京都台東区浅草1-1-7 TEL (3841)4592

予約 TEL (3841)3796



明治大学校歌

- (一) 白雲なびく駿河台 眉秀でたる若人が
撞くや時代の暁の鐘 文化の潮みちびきて
遂げし維新の栄になふ 明治その名ぞ吾等が母校
明治その名ぞ吾等が母校
- (二) 権利自由の搖籃の 歴史は古く今もなほ
強き光に輝けり 獨立自治の旗翳し
高き理想の道を行く 我等が健児の意氣をば知るや
我等が健児の意氣をば知るや
- (三) 靈峰不二を仰ぎつゝ 刻苦研鑽他念なき
我等に燃ゆる希望あり いでや東亞の一角に
時代の夢を破るべく 正義の鐘を打ちて鳴らさむ
正義の鐘を打ちて鳴らさむ

編集部より

本号は急きょ特集号となりましたのすでに送付いただいている一般原稿は次号に回します。

編集後記

十九年前といえど今大会で頑張った一年生の鉢谷や山本が生まれたころ—永かつた。

いつも、「相手のことを考え、やたらにガッズボーズをしないように」などと、ついしながら勝利の瞬間、正直いって我々自身、相手のことなど念頭になかった。まさに狂喜乱舞の態。白状すれば大将戦途中で見ていられなくなり、席を立ててしまった。人気のない便所前の廊下に一年生のHが会場の歓声に背をむけて立っていた。「とても見ていられません」という馬鹿野郎、ちゃんと見ておけ」とはよくいえたものだ。それにしてあと一分が永かつたこと。

感激のない人生はつまらない。しかし人間、年経る毎にもの事に感動しなくなる。その中年初老のOBたちを感動のうずに巻き込んでくれた選手たちに感謝の言葉もない。たかが柔道、されど柔道である。

会報「明柔」が再刊されて足かけ十年、今年こそは優勝の記念号を、と願いつつあつという間に十年たつてしまつた。そしていま目出たく念願がかなつた。

各新聞社の協力を得て優勝特集号は写真集とした。ひと通りのものが出来たと自画自賛しているが例によつて印刷担当渡辺(欣)氏の御苦労によるところが多い。

「91L号」が特集となつたことすでに寄稿いただいていた予定稿が「92F号」に回る事を御了承いただきたい。

この写真集発刊の機に写真担当で山内鉢生君(五五年度)が編集部入りをした。同君撮影による、十三番目の優勝記念写真のパネルが昨日道場に掲げられ、ひとさわ輝いている。(K)

編集委員 渡辺欣嗣 神永昭夫
小林敏邦 代田正俊
西村良之 吉井敬吉
浜本義典 入江秀明
山内鉢生

「明柔」年二回発行	
平成三年八月二十五日発行	
編集部	神田和夫
発行人	神田和夫
発行所	明治大学体育会柔道部
印刷所	東京都千代田区神田駿河台一 二九五一四四八九
事務所	東京都千代田区神田三崎町二 二一〇四〇三一三二六二一
工場	九〇三一三九六七一 九三一七 九〇三一四六三五二一